



Relive Journal

りらいぶ” ジャーナル No.47

2023年 錦秋号

(10月31日発行)

< “りらいぶ” 憲章 >

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を
“りらいぶ” と呼び、その生き方をサポートします

<目次>

1. 第16期 期首のご挨拶 (理事長 竹川忠徳、副理事長 阿賀 敏雄) P2
2. コロナ5類変更後の感染予防対策 (楽しい人生を求めて) (顧問 渡嶋 八洲夫) P3
3. 苦手なことへ挑戦 (会員 斉藤 秀子) P4
4. コロナ後のイタリア旅行と大事故との闘い (孫との二人旅行) (会員 山本 昌弘) P4
5. ローマでのパスポート盗難事故と帰国渡航書取得の悪戦苦闘 (会員 山本 昌弘) P11
6. チャンディダサの日々⑨ 本場ヌガラジェゴグ (会員 黒部 正也) P14
7. チャンディダサの日々⑩ 海峡とジャラック・プティ (会員 黒部 正也) P16
8. 走行中に手綱をおいて (会員 鳥居 雄司) P18
9. 私の記録 とりあえず20歳代前半まで (続編) (会員 石尾 賢一) P19
10. 北米1 (世界1) に成った途端「ジャップ!」と言われた(1980) (会員 赤神 潔) P27
11. 事務局からのお知らせ P39



第16期 期首のご挨拶

理事長 竹川 忠徳
副理事長・関西支部長 阿賀 敏雄



(竹川理事長)

(阿賀副理事長
 関西支部長)



先ずは、会員諸氏並びに諸団体(キャメロン会・NPO法人南国暮らしの会)の皆様方には平素よりお力添えを賜り、改めまして厚くお礼申し上げます。

昨年度は、スローライフ(効率やスピードを重視するのではなく、のんびりと過ごしながら人生を楽しみ、生活の質を高めようとする事)を取り上げましたが、皆様に於かれましてはスローライフの御満足度は如何でしょうか。

今期は「キョウヨウ」と「キョウイク」があれば、を取り上げてみたいと思います。これは今から10年と数か月前に朝日新聞の天声人語というコラムに登場した途端に、シニア層で大流行したコトバです。この二つがあれば、「体が強くなり頭がボケない」というのです。

是は、天声人語に紹介された時期より1～2年前から、私共の機関誌「りらいぶジャーナル」に頻繁にご投稿頂いている関西支部の木津谷文吾さんが、多方面に解説付きで披露されていた「キョウヨウ」と「キョウイク」でした。

教養と教育かと思いきや、実は「今日、用がある」と「今日、行く所がある」です。

昨今コロナ禍も下火になりましたので、先ず手始めに関西では「元防衛大臣 森本敏先生 特別講演会」、関東では「りらいぶ落語会」を開催し、その後もIT技術も駆使しながら「キョウヨウ」と「キョウイク」の場を提供し続けていく所存です。スローライフ方式ではありますが……。

ところで過日、徒然なるままに「りらいぶジャーナル」のアーカイブを開き多くの投稿文を読み進んでおりますと・・・突然この一文が私の心に強烈に響きました。
 『・・・他人様に喜んでもらえる場面があれば迷わず手を差し伸べて、わが喜びとするよう心掛けています。・・・』これぞ、りらいぶジャーナルNo.36にある伊丹淳一さんの寄稿文、その第7ページ左上の一文です。

思い返せば、若い頃にビジネス書を買ひあさるのが趣味のような時期が有りましたが、ある日、心理学者マズローの著書「欲求の5段階説」に触れ、その論文には、人間力の成長に伴い、(生理的・安全・社会的・承認・自己実現)に示される欲求段階の順番に到達する、と自己実現の欲求を最高位の人間力保持者のように認められていたように記憶します。ところが、晩年マズローは、更に周りや自らかを觀察する間に、より人間力を高めた人の存在に気付き、神の域に近い6段階目の「自己超越の欲求」を発表したようで、伊丹さんも同じご心境で日々をお過ごしなのだと嬉しくなりました。今後、皆様共々是非見習わせて頂きたいものです。

蛇足ながら、アーカイブの閲覧ご希望の方は、当事務局宛にその旨Eメールをお送り頂ければ幸いです。



2. 「コロナ5類変更後の感染予防対策」 (楽しい人生を求めて)

顧問 元キャメロン会
会長 渡嶋八洲夫

コロナ感染症法上の位置づけが「5類」に変更された。
NPO 法人リタイアメント情報センター事務局より5類後の
感染対策をまとめるようにと依頼を受けた。引き受け
たものの専門家でもない小生にその知識もなく、チャ
ット・AIに聞いてみることにした。

幸 NHK が厚労省の資料を基に首都圏ナビ用に作成さ
れた文章がえられた。わかりやすくまとめられている
ので、NHK 制作の「5類後の対策」を紹介することに
する。

5つの基本として

- (1) 体調不安や症状あるときは自宅療養か医療機関を受診すること。
- (2) その場に応じマスク着用やせきエチケット
- (3) 3蜜をかけること換気
- (4) 手洗い
- (5) 適度な運動と食事

体調不良や発熱などの症状がある場合には無理せず
に自宅で療養したり医療機関を受診したりすることと
して、職場や学校などは休暇を取得しやすい環境
を整えるべきとしている、そして
特に高齢者や持病ある人と会うときは体調管理を厳重
にするよう求めている。
身近な感染対策について 2020 年 5 月に当時の政府
専門会議が示した「新しい生活様式」
とは何か引き続き求められるか、整理した。

(これまで) → (今後)

- *間隔 「できるだけ2m」→「距離の記載ない」
- *マスク 「外出時など着用」→「その場に応じた着用」
- *移動 「流行地域往来控える」→「言及なし」
- *日常 「食事イベント参加等場面ごとに対策」→「具
体的な場面示されることない」

人との間隔について具体的な距離の記載がなくはく
なったほか買い物や娯楽、レジャーといった場面ごと
には示されていない。ただ密閉、密集、密接の「3蜜」
の回避は換気とともに引き続き有効な対策で、特に不
特定多数の人がいる場面は人との間隔を空け、すいて

いる時間帯や場所を選ぶことで感染症のリスクをさげ
られるとしている。

従来はできるだけ2メートル最低でも1メートル空け
ることや、真正面で対面しての会話はできるだけ避け
ること、そして「3蜜」の回避が求められていた。買い
物や公共交通機関の利用など混雑を避けてすいたと
期間を選ぶことが推奨されていた。

*マスクの着用について

「その場に応じて着用」としていて着用は地域の感染
状況や周囲の混雑の状況、空間の広さ、その場にいる時
間、それに目の前にいる人の重症化リスクなどを考慮
して判断し、外出時はマスクを持ち歩き、着用を呼びか
けられる場面では着用することとする。

*移動について

今回は場面を示して呼び掛けることはない。従来はコ
ロナの流行地域は共に控えること、発症したとこのた
め、どこで会ったかをメモにするかしていた。

*食事について

対面でなく横並びで、大皿は避ける、イベントなどに
参加するときは接触確認アプリを活用等日常生活の細
かい場面ごとに対策のための行動がよびかけられてい
たが、今回は具体的な場面についてしめされることは
ない。

*手洗いについて

変わらず重要だとしている。手洗いは食事の前やトイ
レのあと。帰宅時などは20秒から30秒かけて流れ
る水と石鹸でていねいに洗うほか、適切な手指消毒液
も可能としている。
また体調に不安がある時や発熱の症状がある時は無理
せず自宅で静養し、体調が良くなければ医療機関を受
診することを呼びかけている。

*更に職場や学校などは体調不良の時

休暇を取得しやすい環境を整えるべきで、高齢者や持
病人など重症リスクの高い人と会うときは体調管理を
より厳重にすることも呼びかけている。

*医療機関や高齢者施設マスクの必要性

厚労省の専門家会合に2023年3月8日新型コロナ
の5類への移行にあわせた医療機関や高齢者での感染
対策についての新たな考え方を示した文書が提出され



た。必要とされる対策を一問一答の形式で示している。

このうちマスクの必要性については、施設の職員も利用者也日常的にマスクを適用することが望ましいとする一方個人や個人のベッドの上などではマスクを外して過ごすこともできるとしている。

*面会には過度な制限を設けない

訪問者との面会については面会を制限することで患者や入居者の体や心などが衰えてしまう可能性が与えられ指摘している。そして家族などの訪問に当たっては発熱や咳などの症状がないことを確認したリマスクを着用して決められた場所で面会といった感染対策をとったうえで、過度な制限をかけないように求めている。

*スタッフの旅行や外出制限はすべきでない

医療や介護現場のスタッフが会食や旅行を制限する必要があるかどうかは、日常の感染リスク、家庭内を含め多様であることから「制限すべきでない」としている。

感染が疑われる症状があれば仕事をやすむこと。業務中でも疑わしいと感じたときは現場を離れ症状と体温を確認すること、症状が続く間はたとえ検査が陰性でも仕事は休むべきだとしている。

(重要事項)

NHK が厚労省などの意見を首都圏ナビ用にまとめた文章を忠実にコピーものであり、いかなる私見も挟んでいない。

以上



3. 苦手なことへ挑戦

会員 斉藤 秀子

絵手紙を習い始めてちょうど一年になります。

これまで絵を描くことはとても苦手でした。

その苦手なことに興味を持つきっかけになったのは友人のAさんが度々送ってくださる絵手紙です。散歩で見つけた季節の草花や、旬の野菜や果物。お土産にお持ちした品物の絵に温かな一言が添えられた葉書など。受け取った時はなんと幸せな気持ちになりました。

いただいた絵手紙へのお返事に、不得意ながら絵を描いてみたいと思うようになり、絵手紙教室を探し始めたものの じっくりくるところが見つからず。

Aさんが通われるお教室の絵手紙展にお伺いした際、運良く先生からお教室への入会の許可をいただき(高齢で、もう生徒さんは増やさないとい頃おっしゃっているそうです) 絵手紙を習い始めることになりました。

先生曰く、絵手紙は言葉が主で絵はその次、なのだそうです。

受け取った人が元気になる様な葉書を送るように、とアドバイスをいただいています。

絵に描く題材を求めて身の回りの物をじっくり観察するようになり、これまでよりも季節の移ろいが気になります。旅行へ行った時にもスケッチブックにデッサンを残すようになりました。新聞やラジオ、電車の広告などでも興味のある言葉に目が行くようにもなり。絵手紙を習い始めてから物事を見る目線が変化してきたように感じますし、日々の生活が彩り豊かになっているようにも感じています。

絵手紙の創始者、小池邦夫氏の著書にあった「下手でもいい、下手がいい」という言葉、なんと心強い言葉でしょう。

お教室で一緒にいるみなさんは絵手紙(教室)歴20年以上というベテランの方も多くいらっしゃいますが「周りの人たちは気にせず自分のペースでやりなさい」という先生からの言葉にも勇気を得て自分のペース



で背伸びせず、ゆっくり楽しんでいこうと思います。

そしてもう一つ。

日頃、体操のレッスンで生徒さんによくお伝えしているのですが「手を動かすこと = 脳を動かすこと」。
A さん曰く「いつ何時外出できなくなったり 入院したりすることもあるかもしれない。そんな時のために手先を使った趣味を持っていた方が良い」とのこと。

確かにその通り！

手を動かし、脳を動かし、そして心も動く絵手紙。
絵が苦手だからと決めつけずに、始めてみて本当に良かったと思います。

だんだん年齢を重ねてくると新しいことを始めることを億劫に感じがちですが、何かを学び始めるのに遅いということはないと信じています。

そして、苦手なことにあえて挑戦して楽しむ、ということとは最強のアンチエイジングだと思っています。

みなさんもぜひいかがでしょうか？



4. コロナ後のイタリア旅行と大事故 との闘い (孫との二人旅行)

会員 山本 昌弘

コロナ後初めての海外旅行として3年越しのイタリア旅行を行うことになった。一番上の孫が中学受験で約3年間の受験勉強のご褒美として、本人がヴァチカン市国へ行くことを希望したので、イタリアのローマ、フィレンツェおよびピサへの11日間の旅行を計画した。学校の春休みは短いので10日前後の長めの休みを見つけるのに苦労してやっと3月26日から4月5日の時期に行くことができた。

この時期になってやっとコロナ対応が緩和されて海外旅行が少し容易になっている。

昨年の8月ごろオーストラリアへ旅行した時はスマホのMySOSというアプリにワクチン接種証明書、健康状態、出国前72時間以内の新型コロナ陰性証明書などを日本入国6時間前までに登録を完了しておくことが必要であった。今回は新型コロナ陰性証明書が必要なくなったので随分楽になった気がした。現地でコロナ陰性証明書の日本国向け版を発行してくれる病院を見つけるのが大変手間を要したのを記憶している。

日本からのローマへは早朝到着したので到着当日の午後一杯でヴァチカン市国を観光した。今回の旅行の最重点の観光である。今回のローマは観光を考えて中

心地にある中央駅であるローマテルミニ駅の近くにホテルを予約した。

ローマは地下鉄が発達しているので殆どの観光は地下鉄Metor oで行けるところにある。ヴァチカン市国はローマの北西部に位置してローマから地下鉄A線で30分程度で行ける場所である。





サンピエトロ大聖堂

ヴァチカン宮殿の大部分を占めるヴァチカン美術館はヴァチカン市国にあって歴代のローマ教皇の収集品を展示して世界最大級の美術館として著名である。



ヴァチカン美術館

多くの観光客があるので効率よく入場するには事前予約が必須である。日本からでもネットで予約が可能でローマの観光地の殆どの施設の予約が可能である。予約が済むとスマホのアプリ Get Your Guide に登録され、予約券が実装されており、それを見せることで入場が簡単にできるようになっている。このアプリを利用すると予約内容を見ることができ、入場時間の変更も簡単にできるようになっている。ヴァチカン美術館はミケランジェロの作品が多く展示されており超有名で、ゆっくり見ると1日かかりである。サン・ピエトロ大聖堂はカトリック教会の総本山としてヴァチカンの中心に建っている。これも見ごたえがする。

ローマでの2日目はローマのA地区の観光である。

この場所には多くの著名な観光地が山積している。「後ろ向きにコインを投げると願いが叶う」で有名なトレヴィの泉はいつも若者でいっぱいである。人口の泉で古代ローマ時代に作られたようである。正面の中央には水を司る海の神が描かれている。パンテオンは古代

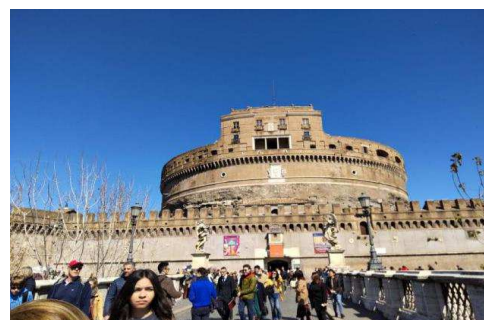


パンテオン



トレヴィの泉

ローマ時代の建築物で世界最大の石作りの建築であり、大きさ、広さでも最大である。ローマ市内を流れるテレヴェ川の右岸に立っているサンタンジェロ城はすばらしい。ハドリアヌス帝が2世紀初めに自らの霊廟として建造したものである。



サンタンジェロ城



スペイン広場は映画ローマの休日で有名になったが、137段あるスペイン階段の上にある白塗りの教会も印象的である。



スペイン広場

ローマの3日目はB地区の観光で見るものが沢山ある。コロッセオはローマ大帝国時代建てられた円形の闘技場であり、剣闘士や猛獣が殺し合いをするのを見世物にする威勢のいい催し場である。



コロッセオ

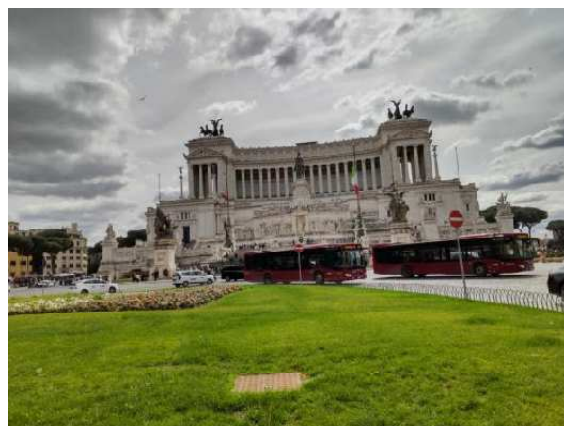
コロッセオのすぐ横に建っているのがコンスタンティヌス帝の凱旋門で教科書でもよく紹介されるローマ最大の凱旋門である。315年にミルヴィオ橋の戦いで勝利をたたえて建てられたものである。

フォロ・ロマーノは約2000年前のローマ遺跡で世界遺産に指定されている。古代ローマ時代に市民の集会、裁判、商業活動、政治討論の場としての広場であった。ヴェネツィア広場はフォロロマーノのごく近くにある

カンピドリオの丘のふもとにある。広場にはヴェネツィア宮殿がありフォーリンペリア通りなど5つの主要道路が集まる交通の要所にあり多くの人でにぎわっている。



フォロ・ロマーノ



ヴェネツィア広場

サンタマリアイン・コスメティン教会の中にある真実の口は嘘や偽りの心を持つ人間が手を入れると手をかみ切られてしまうという言い伝えがあり、この記念



真実の口



写真を撮るためにいつも多くの若者で行列ができて
いる。これはもともとは古代ローマ時代のマンホール
の蓋

ローマ滞在の4日目はローマC地区の観光である。
サンタマリアマジョーレ大聖堂はローマにある
カトリック教会の聖堂で、偉大なる聖母マリアにささ
げられた聖堂で教皇が建築させたローマの聖堂のひと
つである。カラカラ浴場はローマ皇帝カラカラが3世
紀初めに作った複合娯楽施設である。図書館、集会場、
熱浴槽（サウナ）・温浴槽・冷浴槽からなる巨大な公共
浴場、劇場、露店、ジム、マッサージ室などを備え1600
人の人が入場できる古代ローマの娯楽施設である。



カラカラ浴場

サンジョバンニイン・ラテラノ大聖堂は西洋で一番
古い聖堂で、教皇座が現在のヴァチカン市国に移るま
での長い間カトリックの聖堂としてローマと世界のす
べての教会のお母さんとも呼ばれていたようである。
聖堂は全長130メートルもあり、左右の聖壁には十二
使徒の像が並んでおり、聖堂の一番奥には黄金のモザ
イクが配列されて素晴らしい。

ローマ滞在最後の日の観光は早めに終わった。孫が
友達にお土産を買いだと言い出したのでデパートの
デハ地下に行こうということで、ローマ中央駅から地
下鉄で二駅目のバルベリーニ Barberini のラリナシェ
ンテ百貨店へ行くことにした。
二人はお土産を買った後、地下鉄で二駅乗りテルミニ
中央駅近くのホテルに戻った。午後3時近くだったが、
地下鉄は観光客でいっぱい満員電車であった。

記憶をたどると、この地下鉄の電車の中でスリにあ
ったようである。ホテルに帰宅後すぐお土産を見せよ
うとしてナップザックを開けると空っぽであることが
判明した。まず警察へ盗難を届ける必要があるだろう
ということで、ホテルのフロントに聞き、中央駅に鉄
道警察があるからそこへ行くように指示された。警察
へ行き2時間ほど待たされてオフィスに入り、事情を
説明して、盗難届を作成して貰った。

そのあと、ローマの大使館に電話すると、既に4時
半に業務を終了しており、対応してくれなかった。そのか
わりに、緊急の時のホットラインが紹介されており、電
話すると、帰国のための渡航書を取得するための手続
きについて知らせる大使館のネットサイトを教えられ
た。これに従って、二人の戸籍謄本の送付を日本に依頼
し、孫の同意書を作成して、送り返して貰う。翌日にな
り、朝一番でホテル近くの中央駅地下に自動写真店に
行きパスポート用の写真を撮り大使館へ行く。渡航書
発給申請書と紛失一般旅券等届出書を作成して、eチケ
ットとともに提出する。4時間後に再度大使館へ行き
帰国のための渡航書を手に入れた。長い一日だった。
夕刻ローマからフィレンツエへ高速電車で移動した。
計画より約12時間遅れである。この日は二人ともパ
スポートトラブル疲れで観光はすべてスキップしてホ
テルで休むことにした。

フィレンツエへ着いた翌日はイタリア人の友人フラ
ンコ・マーガレット宅を訪問することになっている。

フィレンツエからローカル線に乗り約30分程度の
サグ・ヨバ・ソグ・ヴァルダノ (San Giovanni Valdarno) に行っ
た。

この町は非常にのどかな街で、ローマと同様にロー
マ時代に作られた古い街でワインの産地である。彼ら
とは数年前に地中海クルージングの時に知り合いにな
り、2年前もフィレンツで会っており、交流を続けて
いる。旦那がイタリア人で奥方のマーガレットは英国人で

ある。彼らの自宅に招待され、豪勢なランチを楽しむ
ことができた。その後地元から車で30分程度の山間
部へドライブに誘われカントリーサイドの溪谷を楽し
んだ。



友人フランコ・マーガレット宅

友人宅からフィレンツェに戻り、パスポート盗難事故でスケジュールが半日ばかり遅れているのでフィレンツェ観光を頑張った。ホテルの近くを観光することにした。デ・イ家礼拝堂、サンタリッポリーニ教会などを観光した。フィレンツェもローマと並びローマ時代に作られた古い街で観光客で一杯である。



サンタリッポリーニ教会

翌日はフィレンツェから電車で 30 分程度のピサ

へ行く。勿論ピサは斜塔を見物するのが主目的である。



ピサの斜塔

入るには事前予約が必須である。日本から事前にネットで予約してあったので予約時間に合わせてフィレンツェからピサへ電車で移動した。到着すると案の定観光客であふれていたが、予約済みなのでスマホで予約券を見せるとすぐに入場が許された。斜塔へ上る階段は細くスロープも急で、おまけに階段が傾いているようで上りにくかった。おまけに満員で途中度々待ち合わせがあり頂上まで上がるのに時間がかかった。フィレンツェに夕方戻り、昨日同様に予定遅れを取り戻すためフィレンツェ観光に直行した。フィレンツェ観光のもっとも有名なミケランジェロ広場訪れた。夕方近かったので景色が大変きれいである



ミケランジェロ広場



ミケランジェロの銅像の前で二人で写真を撮った。この広場からフィレンツェ市内が一望でき巨大なドームをま近に見える。眺めは最高である。3 年前に来てから 2 度目であるが眺めは何度見ても素晴らしい。

4 月 3 日は午後にはローマへ移動するので朝早くに起床して最後の観光に行くことにした。朝早くても街中は観光客であふれていた。フィレンツェ歴史地区にある世界遺産のガッティ宮殿ははじめはフィレンツェ



ウフィッツィ美術館

共和国の政庁舎として使われ、一時はメディチ家の住居として使われていた。

ピッティ宮殿はフィレンツェの銀行家ピッティが建設に着手したが完成せず、のちにメディチ家の当主が買取り完成したものであり、有名なウフィッツィ美術館と庭続きである。月曜日のこの日はお休みで残念ながら入場はかなわなかった。当初の計画ではフィレンツェに到着した日に行く予定で入場券を予約していたが、盗難事件の突発でキャンセルしたもので夢の美術館である。次回チャンスがあったら是非入場したいところで、ボッティチェッリ、レオナルド、ミケランジェロ、ラファエッロらイタリア・ルネサンスの巨匠の絵画が多数展示されているようである。

この日夕刻ローマへ移動した。盗難事故の悪い記憶がよみがえりうっとうしくなった。夜遅くになって飛行機会社から出発時間が遅れるメールが入った。翌日早く脱出したい気持ちで日本へ向けてローマを出発し

た。

今回のイタリア旅行は何度も海外旅行を経験し、何度かスリに合う機会があったが、幸い今回のような



ピッティ宮殿

大事故には至らなかった。今回はこれまでにない致命的な大事故で、もう二度と経験したくないと思った。ただ観光はほぼ予定通りできたのは不幸中の幸いである。

(記 2023.年 8 月)



5. ローマでのパスポート盗難事故と 帰国渡航書取得の悪戦苦闘

会員 山本 昌弘

イタリア・ローマ旅行中に致命的な盗難事故にあいパスポートと所有の殆どの現金の盗難事故にあったので、その時の対応の状況について報告する。

ローマ観光の最後の日はずいぶん終わった。孫が友達にお土産を買いだめと言いつつデパートのデパート地下に行こうということで、ローマ中央駅から地下鉄で二駅目のBarberini(バルベリーニ)のラリナシェンテ百貨店へ行くことにした。二人はお土産を買った後、地下鉄で二駅乗りテルミ中央駅近くのホテルに戻った。午後2時半近くだったが、地下鉄は観光客でいっぱい満員電車であった。

記憶をたどると、この地下鉄の電車の中でスリにあったようである。ホテルに帰宅後すぐお土産を見せようとしてナップザックを開けると空っぽであることが判明した。悪夢を見た感じで頭が真っ白になり一瞬どうしたらよいか自問する状況になった。それから悪戦苦闘が始まった。まず警察へ盗難を届ける必要があるだろうということで、ホテルのフロントに聞き、中央駅に鉄道警察があるからそこへ行くように支持された。中央駅に行って駅員に聴くと1番ホームの際端にあると教えられ急いで行った。ドアをたたくと、警察官が現れ、前で待つように言われた。およそ午後3時ころであった。

1時間待っても何も呼ばれず待ち続けるうちに益々これからどうなるか不安になってきた。2時間半ほど待って中に入るように言われてやっと入ることができた。地下鉄A線のBarberini/バルベリーニからテルミ二駅の間でパスポートと現金を盗難したことを伝えた。警察官から詳しく状況を話すように問われ、詳細に説明した。警察官は地元の人でイタリア語しか通じない。

当方は英語しか話せないで英語で丁寧に説明し、そばで、孫が携帯の自動通訳を使ってイタリア語に翻訳したのを流すことで、わかった、わかったと言いつつ話がすすんだ。話の内容をもとに盗難の調書が作られて盗難届が作成された。確認するように言われたので確認した。これでやっと盗難届が発行された。終わったのは5時を過ぎていた。ローマの大使館の電話を調べ電話すると、既に4時半に業務を終了しており、対応してくれなかった。そのかわりに、緊急の時のホットラインが紹介されており、電話すると、帰国のための渡航書を取得のための手続きについて知らせる大使館のウェブサイトが教えられる。

URLは

<https://www.jan24h.com/tc/embassy/italy>。

「帰国のための渡航書」は、外国で日本国旅券(パスポート)を盗難・紛失・損傷・失効、または所有していない日本国籍者が緊急で日本に帰国する必要がある場合に、パスポートに代わる渡航文書として発給されるものです、となっており、正式なパスポートではない。一部に制約もある。

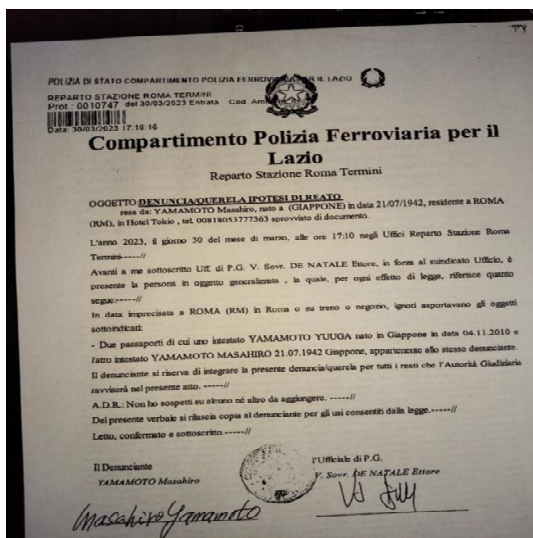
ホテルに戻りこのサイトをみて、必要な書類を知ることができた。以下のものである。

- ①、②、④、⑤、⑥は現地で自分が用意するもの。
- ③、⑦は、日本に依頼するもの。
- ⑧、⑨は大使館で資料を入手するもの。

- ①. 6ヶ月以内に撮影された写真 同一のものを2枚
- ②. 航空券または航空券予約確認書 1部
- ③. 6ヶ月以内に発行された日本国籍を有することを証明する書類 1部
- ④. 失効旅券(パスポート) 1冊
- ⑤. 警察の盗難・紛失届出証明書(焼失の場合は、罹災証明書) 1部
- ⑥. 手数料 20.00ユーロ(2022年度)現金のみ受け付け
- ⑦. (申請者が未成年者で法定代理人が遠隔地にお住まいの場合)同意書 1部
- ⑧. 渡航書発給申請書 1部
- ⑨. 紛失一般旅券等届出書 1部

それからが大変だった。悪戦苦闘である。

まず日本側への依頼を始める。3の戸籍謄本を依頼する。私の分は運よく家内が自宅にいたので役所でとってもらい、孫の自宅である目黒まで届けてもらう。孫と2人分を高精細な写真で撮り、大使館へメールで送付を依頼する。偶然この日は孫の母親が在宅勤務だったので都合よく、また、彼女はパソコンが得意なのでこの作業を簡単にやってくれたが少し苦労したようである。また、7について大使館のサイトからダウンロード



して送付し、同様に大使館への送付を依頼する。これらをメールで送信しておき、8 時間の時差を利用してイタリアの朝 2 時ごろ、日本の朝 6 時ごろに電話して状況を説明し、手配を依頼した。

続いて、海外旅行保険に加入しているので損保ジャパンへ盗難にあったことを簡単な状況説明とともに連絡する。帰国後詳細な状況を報告することでまずは連絡は済んだ。その後、ローマ側での準備に取り掛かる。まず 2 のために航空券の e チケット準備する。9 の紛失届に現在所持していたパスポートの番号が必要であり、たまたま、iPad およびスマホにパスポートのコピーをおいていたので探し運よく入手することができた。昔からパスポートのコピーは必ずスマホ、iPad に保存しており、また紙のコピーを持参することにしていて助かった。

以上で大方の準備が整う。明日 9 時半から大使館が



あくので、それに間に合うように就寝することにした。少し寝たところから、日本から大使館へ送っている資料が CC で送られてくるので、気になってメールを開き確認した。

気になってゆっくり寝てられない。パスポート用の写真が必要なため、ホテル近くの自動の証明写真機をネットで探す。運よくホテル近くの中央駅地下に証明写真機が見つかり一安心した。

旅行の予定を確認する。明日はフィレンツェ移動の日で、朝の高速電車の予約をしているので、夕方の電車にスマホを用いて変更する。同様にフィレンツェのウイッツ美術館の入場予約を 12 時半に予約しているので、これは予定が立たないから、キャンセルすることにする。これもスマホで行う。また、パスポートの取得にどの程度時間がかかるか予想できず、もしものことを考慮して 1 日ローマでとどまること考えて、翌日泊まれるホテルを 1 泊予約する。これらはすべてスマホのメールやアプリで行う必要があるので事前に準備が必要である。

翌日は早起きしてまず、中央駅の地下で自動の証明写真機を探しパスポート用の写真を二人分撮影する。証明写真機での案内はすべてイタリア語のためスマホの通訳機を使いながら操作を行ったが、うまくゆくことができた。

終了後すぐにタクシーでローマ大使館へ直行した。9 時半少し前に到着したので少し待たされた。時間が来てオフィスが空くと大使館員が準備をするように資料を渡された。

前記の資料 8, 9 の二人分である。これについて記入し、資料 2, 5 とともに提出した。一部訂正の指摘を受けたので修正して出すと受け取られた。このとき日本からメールで送られた資料である戸籍謄本二人分と同意書を確認して貰った。これで終了である。終わったのは 11 時近くであった。3 時ごろに帰国のための渡航書ができるので取りに来ようと言われる。

提出が完全に終わったので、タクシーで中央駅まで戻り、駅のレストランで時間まで待つことにした。長い 4 時間である。この間に、フィレンツェ行き高速電車の予約をパスポート取得後の時間を想定して時間変更をすることにした。

帰国のための渡航書を貰える時間の 30 分前に中央駅を離れ、タクシーで大使館へ向かった。大使館では取得



料は一人 20 ユーロで現銀払いのためカードは使用できないという。盗難時には財布は盗まれなかったのがカードと 75 ユーロぐらいの現銀だけが残った。その中から、帰国のための渡航書支給代金を支払った。手持ちの現銀がなくなる心配が進む。帰国のための渡航書が渡され、受領書にサインを促されてサインし、やっと新しい帰国のための渡航書を入手した。

これですべてが整ったので、これからは予定通りの旅行が可能になった。事件が発生してから約 1 日弱で新しい仮のパスポートを入手できた。早朝フィレンツエへ行く予定が約 1 日遅れで、夕方の高速電車で移動することができた。いろいろあったが、ますますであると思った。これからの問題は現銀がわずかしかないうことで、すべてカード払いで旅行をしなければならなくなった。少し不安である。電車代、バス代、一人 1 回 1 ユーロのトイレ代等・・・現銀が必要である。

旅行は約半日遅れの日程で進めることができ、まずはラッキーであった。フィレンツエに到着後ホテルの支配人に盗難にあったことを話した。運よく支配人の奥様が日本人であることがわかり、早速フロントに来て貰い同様な説明をして、現銀がなく困っていることを伝えた。奥様は親切な人で現銀を借用することが可能になり 100 ユーロを借りることにした。大変ラッキーである。これで現銀についてもう安心になった。

あとは、当初の計画を一部修正しながらフィレンツエの観光、ピサの観光、イタリア人の友人宅の訪問を順調にこなす事ができた。

フィレンツエの観光を終えローマに戻った。いよいよ明日帰国である。帰国前日深夜、明日の日本へのフライトが 10:20 から 12:20 発に遅れる旨のメールが届いた。悪い知らせである。ローマを明日出発し、明後日には日本に到着しなければならない予定である。その翌日には孫の新しい中学の入学式が予定されている。1 日もの遅れは許されない状況である。帰国のための

渡航書を申請するときには帰国飛行機のフライトに従って帰国ルートが指定されており変更は許されないことがわかった。

今回はローマ→アブダビ→成田のルートで変更は許されない。従って、もしフライトが変更され出発しないと 1 日遅れになる。もし大幅に遅れてローマを出発した場合、アブダビで成田行きに乗り継げるか心配になった。翌朝になって、再度飛行機会社から緊急メールが届き、さらに 13:20 発への変更が知らされた。これで、益々アブダビでの成田行き乗り継ぎ時間が 50 分しかなく心配になってきた。ネットでアブダビから成田行きフライトを調べると、韓国やマレーシア経由の成田行きがあるが直行便はないことがわかり、パスポートの帰国ルートの縛りが厳しいことがわかってきた。あとは、予定通りで飛行してアブダビで乗り継げるとを祈るばかりである。

翌日になり、定刻より 3 時間遅れて 13:20 にローマを出発し、18:25 にアブダビ着は 3 時間 15 分遅れで 21:40 に到着し、乗り継ぎ時間は 30 分となった。アブダビ空港は巨大であり乗り継ぎは移動が大変である。このローマからのフライトには我々を含めて日本へ帰国する人、日本を訪問する人が乗機しており、大勢の乗り継ぎ者が飛行場を急ぐことになった。息を凝らして走り走り死め思いで乗り継ぎに成功し、やっと成田行き飛行機に間に合うことができた。こんな思いはこれを最後にしたい気持ちで一杯である。

まあこんなことで、終わってみて、厳しいが良い経験になった気がする。もうこんな事は経験したくない。一生で一回でよい。

今回のパスポートの盗難を参考に海外旅行の事前に準備しておくことをまとめる。

私は海外へ旅行する時には必ず準備しておくようにします。

(記 2023.年 8 月)

1. 現在のパスポートのコピーを残す。あるいはスマホ等に撮って保存しておく。
紛失一般旅券等届出書の記載に必要である。
2. 6か月以内発行の戸籍謄本または抄本または本籍地が記載されている住民票。
3. 準備したらよいものとして、6ヶ月以内に撮影されたパスポート用の写真 2 枚。これは現地でも「撮影は可能であるが」。
4. 現金を盗難した時用に、海外キャッシング可能なカード、ネットバンキングカード等々があると安心である。



6. チャンディダサの日々⑨ 本場ヌガラジェゴグ

“Prisoner of the charm of Bali”
会員 黒部正也

私のバリ島民宿暮らしは、最初 1 週間は東北部の鄙びたリゾートで地元の人々をモデルに頼んでクロッキーに熱中する。次は中部の芸術村ウブドへ移り、4～5 週間アナン先生の指導を得て作品を仕上げる。そのような日々を送っていた。

たまたま雨の日、無聊を慰めるために手にした文庫本、阿部知二の「火の島、ジャワ・バリ島の記」の次の一文に釘付けになった。

ジャワの岸からバリの西端のギリマヌークに渡るころは幅 2 マイルほどの海峡である。40℃近い熱を出してから、1 週間もたっていなかったのに、その静の上で激しい驟雨にうちぬらされた。

戦時に徴用され、陸軍報道班員としてジャワへ派遣された阿部知二は小野佐世男、松井翌声と共に約一ヵ月車でジャワやバリ島を旅行する。その海峡を、この目で見たかった。

それから、ウブドで知り合った東京の銀行員市川さんから何度も誘われた本場、ヌガラのジェゴグも一度見たいと思った。そして、チャンディダサの宿で、サブッさんが、バリ島固有種のジャラック・プティを見に行かないかと誘われたことも思い出した。

思い立つと止まらない。早速サブッさんへ電話した。西部バリ 2 泊 3 日ドライブ日程が決まった。ウブドの民宿のオーナーイダさんの甥のグデくんも誘った。サブッさんは 31 歳、グデくんは 26 歳。初対面であるが、私は二人がうまくゆくと思った。

2007 年 3 月 22 日(木) 一日目

9 時。ウブドの民宿、グヌン・クインを出発した。運転手はチャンディダサのなじみにお運転手サブッさん。助手席にはグデくん。私は後部座席に座った。車は観光客でにぎ合うデンパサールを経てタバナンへ入った。穀倉地帯が広がる。タナロットを経て車は海岸線に沿って走った。観光客の車は無い。快調に飛ばす。

11 時、ランブット・シウイ寺院に到着。バリ島西部の名刹だ。海辺の寺院を詣でた。波打ち際の龍が棲むという洞窟の前で、グデくんが何度も手を合わせて拝んだ。私も真似て 3 人の旅の安全をお祈りした。

ヌガラはバリ島西部の大きな町だ。観光客はほとんどいない。サブッさんと相談しながら、宿を探した。ヌガラの中心街グラライ通りに面したウイラパダホテルに決めた。入り口にレストランもある。部屋の下見をして私はファミリールームを選んだ。広い居間には大きなテーブルと大きめのソファがある。お湯は出ないがクーラー、テレビ、冷蔵庫が付いている。二つのベッドルームが付いているが、いずれもダブルベッドなのだ。一部屋は私。二人はどうする？ ロタに「OK です！」と、私は聞いたと思いこんで、サブッさんに任せた。25 万ルピアルピア (3500 円) 注 1 に値切った。

(注 1) 当日のレート：1 円 = 71.42 ルピア

運転疲れのサブッさんは昼寝。私はグデくんを誘って街に出た。グデくんとはすでに 3 度ロンボク島小旅行へ一緒に行ったことがある。明るい気の好い青年で相性が良い。

ジェゴグを見る前に腹ごしらえをした。ホテルの入口にある食堂へ入った。二人はナシチャンプールと呼ぶ定食を注文した。おかず 5 品に白ご飯のバリ島の定食。私はイカン・アサム・マニス(揚げ魚に甘酢ソースをかけたもの)とチュミ・チュミゴレン(イカのテンブラ)と白ご飯にした。料理コンクール受賞カップが並べてある味自慢の店らしい。私は満足した。3 人で 86000 ルピア (1200 円) は安い。観光地ウブドの二分の一位だ。観光客のほとんどいないヌガラの旅は割安だ。

夕刻、ジェゴグ会場へ向かう。ジェゴグの会場は、ヌガラの東サンカルアウン村のスアール・アグン歌舞団団長のスエントラ氏の自宅である。夕暮れ近くの会場には既に日本人観光客 10 数人が開演を待っていた。デンパサールからジェゴグ観光ツアーのバスで来た一行だ。軽食付き 40 ドルは約 4000 円、大変割高である。

夜 7 時、スアール・アグン団の公演が始まった。椰子の林に囲まれた会場には大小 20 基の竹製打楽器が並んでいる。目立っているのは低音域を担当する超大型のジェゴグである。

実は、4 年前私はウブド郊外のブントゥユン村でジェゴグを聞いたことがある。大小の竹筒を並べた打楽器は、わずから基だった。やはり本場ヌガラのジェゴグの規模が違う。

直径 20 センチ、長さ 4 メートルもの図太い竹筒 8 本の上に、真っ赤なサロンを腰に巻いた若者二人が馬乗りになって、両手に握ったバチで竹筒楽器を叩いた。

まるで大砲の砲身に似た太い竹筒聞いたこともない



重低音が、音というよりも地鳴りのような震動で私を襲った。「これがジゴグの重低音だ!」と、私は思わず唖った。圧巻はムルンバ(演奏合戦)。40名の演奏者が紅組、青組の二チームに分かれて、リズムと音量を競う。

凄まじい重低音が漆黒の闇を揺さぶり、乾いた高音が椰子の葉を震わせた。

両チームの竹筒から繰り出されるダイナミックなリズムは演奏者の叫び声も加わって、音の格闘技に見えた。音階は4音で構成された音楽を、耳だけでなく身体全体で繰り返し聴いているうちに、私は快い疲労感に包まれ、不思議な快感が身体を貫いた。

「東京の市川さんを虜にしたのはこれだ!」と、私は思った。

ジゴグの演奏合戦が終わると、会場中央に頭上に真っ白いウドンと呼ぶ布帽子を被り、腰に青いバティックのサロンを巻いた芸術家タイプの男が現れた。

「ナベサダさんにそっくりね!」

と、観客が囁いた。団長のスエントラ氏だ。一度廃れたジゴグを復活させた功労者である。奥さんは日本女性と聞いた。

団長の流暢な日本語に誘われて、私たち観光客15名はあっという間に舞台へ上げられ、両手にバチを持たされた。

イ・クトゥ・スエントラ団長



15名の観光客は、若者たちにそれぞれジゴグの叩き方を教えられた。舞台に照明が当てられ、瞬間に演奏者に仕立て上げられた。はじめは渋っていた70歳くらいの女性は、黄色い声を張り上げた。白いタイトスの若い女性は大声を張り上げて、額に流れる汗を片手で拭った。私も負けずに超大声をはりあげながら、両手のバチで竹筒楽器を思いっきり叩いた。訳の分からない涙が溢れた。

ジゴグのムルンバ(演奏合戦)





7. チャンディダサの日々(10) 海峡とジャラック・プティ

“Prisoner of the charm of Bali”
会員 黒部正也

2007年3月23日(金) 二日目

朝9時、サブッさんが運転するキジャン(トヨタのワゴン)はヌガラを出て、バリ海峡へ向かった。昨夜の本場ジェゴグの興奮を反芻しているうちに、海峡の港町、ギリマヌクへ着いた。大型フェリーに車や人々が大量乗船している。海峡の向こうにジャワ本島が見える。

「3キロ、30分でジャワへ渡れます！」

サブッさんの説明を聞きながら、私は車を降りて港の岸边から見えるジャワを眺めた。そして、全く別のことを考えていた。

昭和16年(1941年)秋、徴用令書を受け取った小説家、阿部知二のあれこれを思い出していた。小説家、画家などいわゆる文化人が、開戦前に一斉に徴用された。

昭和17年(1942年)3月、インドネシアに佐倉丸で上陸、バタビア(ジャカルタ)に入る。5月、約一カ月の日程で小野佐世男の運転する車で、松井翠声と共にジャワ島、バリ島を旅行した。

「40度近い熱を出してから、1週間もたっていなかったのに、そこの峠の上で激しい驟雨にうちぬらされた」と、著書「火の島」に書いている。

私はフェリーが行き交うバリ海峡を眺めながら、戦時この海峡を、雨に打たれながら渡った気鋭の作家の心境を想像していた。

「クロベサン、気分が悪いのですか？」

と、グデくんが心配顔で近寄って来た。何でもないよ、と私は曖昧に返事した。

車はギリマヌクを出てシンガラジャへ向かう幹線道路を10分ほど走った。左側に小さな看板を見つけた。

路地を入ると奥まったところに門があり「ジャラック・プティ トレーニングセンター」と看板に書いてある。が、固く閉まっていた。

ジャラック・プティはバリ島だけに棲息する貴重

な固有種の小鳥。カンムリ・シロムクとも呼ばれる体長20センチ位の小鳥。真っ白いきれいな羽に、目元だけくっきり鮮やかなブルー。美しさと稀少性から、高く売れるので乱獲されて今は絶滅の危機にあるという。

西部国立公園の一角にあるトレーニング・センターで保護・繁殖中とガイドブックに記載され、12月～5月は繁殖期なので見学は厳しく制限されているとある。

正門のゲート越しにサブッさんは熱心に係員と話しかけていた。何をどう要望したかは分からないが、固い正門が開いた。特別に見学が許された。

係員が差し出したドネーション帳に国名と氏名を書き前の欄のオランダ人に合わせて10ドルと記載した。

広場には金網で囲った大きな飼育室が数棟ある。一室に10数羽、真っ白い小鳥が飛び交っている。どれもが、あのジャラック・プティだ。小枝にとまったり白い小鳥を観察すると、目元に特徴がある。真っ黒な瞳の周りに鮮やかなブルーのきりりとした隈取りがある。尾の先は黒く、アクセントになっている。見栄えの良さが逆に災いして、乱獲の対象になってしまった。

闇市で7000ドル以上だった、旅行案内書にも記載されている。

「6つの檻で、約100羽飼っています」と、係員は説明した。

「日本で繁殖したのはいますか？」「カナガワのですね。こちらで特別に飼っています」

と、係員は小ぶりのケージへ案内した。数匹元気に小枝で鳴いている。

実は、以前日本のテレビで、日本もジャラック・プティの繁殖協力をしている、と報じた記憶があった。神奈川県施設で、日本も協力しているんだと、私は嬉しくて、小声で頑張れ！と呼びかけた。

「はい！」と、数羽が一斉に鳴いた気がした。プラキ寺院を出たところで大きなガベン(お葬式)の行列に巻き込まれた。黒い制服を着た村人数人が車を停めた。行列は30メートル位なのだが、先頭を行く棺の神輿が道路の左右一杯を使って奇声をあげながら道路を塞いでいる。

サブッさんはハンドルを叩いてイライラしている。私は道を半分開けて車を通せばよいのに、とつぶやいた。グデくんは、眼を瞑り、俯いてぶつぶつ言っている。神輿が右に折れて寺院に入ると、道路の



半分が空いて、車が動き始めた。するとグデくんが窓を開けて黒服の男に囁きながらお金を差し出した。「お香典だ！」

と、私は気付いた。彼はお葬式の行列にお祈りを捧げていたのだ。彼は敬虔なバリ・ヒンドゥ教徒であるが、それにしても、と私は少し恥じた。

今夜の宿探しは私が主導した。というのは、今朝私が起きて広間に入ると、サブッさんがソファアーに寝転がっていた。私が訝って理由を聞いた。

「……………」

彼が早口で何か言ったが、聞き取れなかった。あれこれ考えたが、思いつかない。もしかするとカーストの違いか？と推察したが、詮索は止めた。

サブッさんとグデくんは同じバリ青年に見えるが、実はカーストが異なる。グデくんは2番目のハイカーストに属している。サブッさんは4番目の一般である。

旅行者には見えないが、8年ハイカーストの民宿で暮らしてみると、カーストの違いが透けて見える。言葉遣いが異なり、座る位置が違う。例えば民宿のオーナー、イダさんに会いに来た一般の村人は、上がり框に跪く。

ダブルベッドは災いしたか、と私は推察し、反省した。

と、いう次第で、今夜の宿はどうしてもツインベッドの部屋にしたかった。

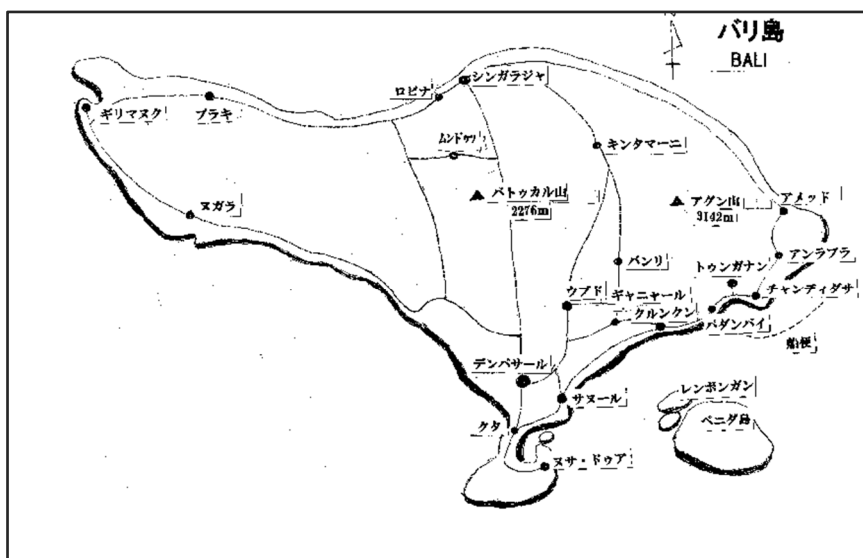
バリ島北部の観光地、ロビナでリニ・ホテルという格好の宿が見つかった。ドイツ人がオーナーだという。

植え込みの美しい広い庭に清潔な宿泊棟がある。

広い部屋にシャワー室はお湯が出るがテレビはない。ツインベッドのデラックスルーム2室を選んだ。彼は40万ルピア(5,600円)に値切った。交渉の秘訣を彼に聞いた。

「今回はプライベート、次回は外人観光客を連れ来ますから、ドメスチック料金で宜しく」と、言いましたと笑った。今夜二人はツインベッドでそれぞれぐっすり眠れるだろう。

ジャラック・プティ





8. 走行中に手綱をおいて

会員 鳥居 雄司

☆ この大会の作戦は

北海道で9月の大会に参加しました。午前6時の気温は13度です。乗馬をして心地よいのは気温10度から20度未満です。20度を越えると相当に汗をかくので、人も馬も水の補給に気がつかれます。午後2時の気温は24度の予報なので、走行の展開は、6:30出発の1区間で涼しい中を快走して時間を稼ぎ、気温があがる2区間はできるだけ20度を越える前に終わらせる作戦を考えました。

同じ馬主さんから4名が参加し、一緒に走ると負担が軽くなり、短時間で走破できます。馬は、最初に動き出した馬に先導されて群れになり、移動します。4頭が代わるがわる先頭になると、馬も人も負担が軽く、好記録を期待できます。

☆ 1区間は

6:30に出発して、30kmを2時間30分で到着する計画を立てました。私たち4名に1名が加わり、5名の集団で走りました。残り6kmになり、加わった1名が私たちの前に飛び出して引き離しにかかりました。私たちはその人馬を追うことなく、予定通りの速さで進んだので1頭はどんどん先行して離れました。

事前の走行計画と走行時の比較はいろいろな方法で確かめています。大会で渡された地図をみて、目安距離の場所を地図上で確認し、そこを通過したら距離と経過時間を比べます。地図上の場所を実地で確かめ易くするために、事前に場所の確認で下見に行く人もいます。

最近増えてきたのは、腕時計型のGPS距離計の活用です。陸上競技で使われるのをエンデュランスで使います。これだと走行距離を直接測れるので便利です。私も使っています。これは、計画で予定した距離をGPS距離計の表示を見て、いつでも走行距離を確認できるようになります。さらに到着までの残り距離が容易に分かるので、疲れが軽減する気がします。

到着後に獣医検査票を受け取ると9:01が1区間の到着時刻でした。2時間30分の予定を2時間31分で走りました。1区間は事前の計画通りに走行できました。さらに馬の負担が少ない走行だったので、到着時

刻から15分以内に受ける獣医検査を8分後に受けることができ、時間を短縮して2区間に進むことになりました。

☆ 2区間は

2区間の出発は9:49を指定されました。気温19度で、暑くなる前に2区間を走破できると期待しました。しかし、会場を出て2km位まで緩慢な動きで、ほとんど常歩状態です。獣医検査は十分に運動できることを示し、運動しようという馬の前進氣勢の乏しさが分かります。出発時のように競い合う場面から、妙に落ち着いて日常にもどると馬の動きは悪くなります。また、競技ではなく、観光で動くときはゆっくりした歩みになります。今回は同じ馬主から出場している4頭がまとまって運動しているので、勘違いをしている可能性があります。1区間のような状態に速く戻さないと制限時間を超過して完走できないかもしれません。2



区間の登りは背の高い下草が生える急坂があり、それに備えて前進氣勢を高めることが必要です。この場合、馬場だと鞭、拍車など注意喚起を促す道具を使いますが、エンデュランスでは所持が禁じられています。それで、多くは足のカカトで蹴ったり、摺りあげたり、フクラハギで圧迫したり、手のひらで馬の首をたたいたりします。いろいろ試みるうちに⑪を越えるころから動きが活発になりました。そして、⑭に向かう背の高い下草の急坂を登りきることができました。

高原を過ぎると急な砂利の下りが続きます。下りでも登りでも騎乗者は上体の垂直を保ち、馬の負担軽減を図ります。下りで前傾すると、馬の前肢に騎乗者の体重が多くかかります。特に砂利道は滑り易く、前肢の滑りが転倒をよぶ恐れがあります。全日本大会の120kmなどでは馬の負担を軽減させるため、坂の昇り降りは下馬して馬を引くことが珍しくありません。特に下りは登りより下馬して騎乗者が馬をひくことが





9. 私の記録 (NO46 号から続く)

会員 石尾 賢一

松下電器

昭和 44 年春、大学は紛争が続いていたけれど世の中は景気の上昇が続き、日本の GNP は資本主義世界で第二位に。国際収支の黒字定着化し、国内ではカラーテレビ等の高成長開始(3C ブーム)、昭和元禄の風潮が続いていた。そのような景気が好調のなか 5 月初旬から就職者の募集がはじまり就職ボードに掲載がはじまった。

同志社大学では 5 月の連休が明け採用募集がはじまると迷うことなく即時に「松下電器」に応募した。さっそく試験日の案内があって翌週中ごろ門真の本社に試験を受けに出向いた。帰宅するとすぐ面接の連絡が入って数日後人事担当役員の安川取締役の面接を受けた。週が明けて合格の報がとどいた。応募して合格の報まで就職活動はほぼ 10 日間ほどであった。三年までの成績は平均点が 80 点あり、後で述べる縁故の後押しもあったので採用部としても採りやすい学生であったと思う。

松下電器では 1970 年に 600 名、翌年は 1,000 名を越える大学高専卒業者を迎えた。団塊の世代が大学を卒業する数年間、好景気が続いたのは企業にとっても学生にとっても幸いなことであった。

◇学外実習

大学の四年次には「学外実習」という企業に出向いて実習すれば一単位取得できるという科目があった。松下電器に入社が決まっていたので夏休みに門真の本社棟に對面して聳えた「松下電器中央研究所」にて実習を受けることとなった。会社としても入社前に人物を査定できるので嬉しい制度であったと思う。本社と研究所の間は広大な芝生の広場があり、噴水を囲んで科学・工業の先覚者たち、エジソン、豊田佐吉、平賀源内、佐久間象山、アンペール、ファラディなど歴史的な偉人の彫像が円形に配されていた。ちょうどそれらの彫像が眺められる 4 階の光ディスク開発センターに配属され 錦織圭史室長から磁気素材のセンシング能力のデータ取りの仕事を与えられて地道な作業を行っていた。

ちょうどその最中 1969 年 7 月 20 日アポロ 11 号の人類最初の月面着陸の映像を研究室にてじっくりと見ることができた。

◇松下電器との縁

父方は石川県羽咋市の出身である。父方の祖母は三男五女の兄弟姉妹の末っ子であった。祖母には県外に出ている親族も多かった。その一人が大阪で鋳造業を営む松井家に嫁いでいた。ところで「松下電器」の創業時の事業は、電池を用いた自転車用ランプとアイロンの電熱事業とラジオ事業であった。昭和 10 年に松下電器製作所を株式組織とし松下電器産業株式会社を設立した際、電熱部門を松下電熱(株)として分社化し本社が東淀川区野中南通にあった。東西に走る淀川北岸線から神津神社の交差点を北にはいり十三の実家の脇を通過してその先に十三中学校がある。さらにその先にこの工場があった。

アイロンは 1927 年(昭和 2 年)にスーパーアイロンとして売り出された。松下幸之助所主は当時破格に安い 3 円 20 銭で、月 1 万台をつくるようにと指示した。このスーパーアイロンは非常な売れ行きを示し、昭和 5 年に商工省から国産優良品に指定された。

このアイロンの“蓄熱兼重し”部分が松井鋳造で作られていた。鳴野にある松井鋳造の工場からダイハツの三輪トラックで鋳物部品を松下の電熱事業所に納品されていた。その納品の順路に実家があるので時折寄られて祖母が接遇していた。子供のころ鳴野にあるこの松井家





に祖母がよく連れて行ってくれた。その当時松井家は角界の有力なだにまちであり、屋敷には千代乃山、鏡里など横綱や大関の手形がたくさん飾られていた。松井家はスーパーアイロンとともに家業の鋳物業に成功されていた。

一方母方の実家は中河内(現大阪市生野区)の農家であった。母は兄がひとりでわたしの従兄妹は3人だけである。この従妹の嫁ぎ先の義母が現「パナソニックデバイス日東(株)」創業者で「朝日電器(株)」社長増井松次郎氏の夫人であった。増井松次郎氏は大正2(1913)年増井電器製作所を創業され、昭和49年逝去された。お宅が西宮にあり、葬儀には葬儀委員長を松下幸之助会長がつとめられた。松下、松井、松次郎の三つの松は日本の家電業界の創業者仲間であった。この三方は名前にちなんだ「三松会」という私的なサロンを作って晩年まで交流されていた。

松下幸之助創業者は毎年1月に枚方の総合体育館で行われる経営方針発表会に顔を見せてご挨拶をされていた。最後に出席されたのが1989年1月の式典であった。お話が終わったあとわたしのすぐそばを車椅子にて退席された。すいぶん衰弱されていて、心のなかでひそかにお別れのご挨拶をさせてもらった。まさに幸之助翁は昭和天皇の崩御を見送られて平成元(1989)年4月27日に逝去された。

このように身近に松下電器縁故の方がおられ、わたしが就職を決める当時はまだ創業されたお三方がお元気でいらしたことで自然と「松下電器」に縁をいただいたと思う。

松下電器産業のシステム事業

松下電器産業株式会社では通常入社後、大学高専卒業者は一か月の導入研修の後、半年間販売実習と製造実習を課せられる。ところでこの年は電化事業以外の事業拡大を図るため、営業部門に特機部を設けて人員の強化をしているところであった。そのため本社に「システム開発室」という部門を創設し道路照明工学の馬場輝郎博士が室長となって高速道路へ納入するシステムの開発を行っていた。そこで理科系出身の23名を選抜して通常の研修を課したうえでさらに横浜市綱島の「松下通信工業株式会社」に三か月間の特別研修コースを設けて送り出され、わたしもその一員に加えられた。1945年5月から神戸市和田岬の三菱重工の正門近くの電器店で販売実習をし、8月からは門真の音響事業部プレーヤー工場で生産実習を行った。そのあと新宿区弥生町の独身寮から綱島の松下通信工業に通った。

◇松下通信工業での研修

松下通信工業(株)は昭和33年に通信機器、計測機器などの製造部門として設立され、35年に門真市から横浜市綱島に新工場を作って移転した。

この事業所での三ヶ月間は知的な刺激にあふれていた。これから仕事をしていくためシステムの観点から技術概念を基礎から教えていただいた。

- ・オペレーションズリサーチ 唐津一
- ・交通制御システム 定方希夫
- ・教育システム 一木允
- ・建築音響システム、放送システム、映像システム

など一流の講師陣から大学では学べない実践的な教えを乞うことができた。

この研修期間中の昭和45(1970)年11月25日、作家・三島由紀夫が、市ヶ谷の自衛隊本部に乗りこみ憲法改正のため決起(クーデター)を呼びかけ、割腹自殺をした事件があった。三島由紀夫の絶筆『豊饒の海』(ほうじょうのうみ)四部作のうち『春の雪』『奔馬』『暁の寺』はすでに出版されており最後の『天人五衰』を書き終わって自刃した。

戦後文学のうち坂口安吾のようなデカダンスをテーマにした作品はなんとなく作者の言わんとすることやかもしだす空気感が理解できたが、三島由紀夫の輪廻転生をテーマに扱ったこの小説はなかなか手ごわい作品であった。わたしが輪廻転生の死生観に取り組むようになったのはもう少し先であった。その頃は三島由紀夫の死生観より、システム工学を駆使した現世利益の実現に知的な興奮と学ぶことの喜びを覚えていた。



◇神戸特機営業所

松下通信工業での研修を終えて、昭和 46 年 3 月より松下電器産業株式会社神戸特機営業所に勤務することになった。最初のミッションはビデオ事業部の製品を代理店に卸すルート販売、および兵庫県下の官公庁物件の受注納入である。

わたしは新しい職場で仕事をはじめると同時に自分に対してある方針を定めた。それはこれから取り組む仕事には必ず、自分にとってはじめて、営業所にとってはじめて、松下電器にとってはじめて、とにかく“はじめて”というキーワードが含まれていること。というものでした。とにかくヒトの二番煎じはやりたくないというまことに生意気で世間知らずな考え方でした。この考えは自分の心のなかに納めていたのですが、取り組んだ仕事そのものに手本がなく自分で道を切り開いていかなければならないものであったためこの「秘めたる動機」はなにより必要なものでした。

ここで初期に取り組んだ事例をいくつか紹介します。

事例1 神戸市文化ホール舞台音響システム、舞台照明システム

当時は自治体に公共ホールを設けることが盛んになりはじめた時代でした。これらの事業はゼネコンやサブコンの工事業者が元請けして施工し、メーカーは機器のみを納入するのが主流でした。それをメーカーとしてシステムで受注することに取り組むことにしました。施工業者として指名を受けて入札に参加し、舞台音響設備工事、舞台照明設備工事という二つの物件を神戸市から受注しました。これまで舞台(ホール)音響は真空管アンプ方式でしたが、このホールではトランジスタアンプ方式を採用しました。また舞台照明システムでランプは松下電器、照明器具は松下電工が分担して電材代理店に卸していましたが、これをシステムとして元請け納入したということは、以後日本各地に設立された文化センター件名への大きな画期となりました。

事例2 神戸市戸籍・住民票伝送システム

神戸市はこれまで届け出た区役所に保管されている戸籍や住民票をどちらの区役所からでもファクシミリで受け取ることができるという市民サービスを考えていました。サイズが美濃版の戸籍謄本を送受信する装置を送受信量(窓口への来客数)にあわせて過不足のない台数を設置しなければなりません。当時、松下電送(株)は送受信対向の機器を製造する事業所でしたが、通信ネットワークシステムの最適設計という手法はありませんでした。ここで役に立ったのが松下通信工業(株)にて唐津一郎(1961 年日本電信電話公社から松下通信工業に移籍、1978 年常務取締役)から教わったオペレーションズリサーチという工学手法でした。より具体的には門真の無線研究所におられた泉室長から「待ち行列理論」の手ほどきをうけて、システム設計を行いました。

公共の仕事では最後に入札という関門がありこれを無事通過してはじめて受注に至ります。落札することが営業の目的であり客先のニーズを解析してシステム

を提案することは受注に至るための一つの営業行為でしかありません。この案件では T 社、N 社を押さえてトータル 80 台を超えるファクシミリ送受信装置の納入を果たすことができました。入社早々の若造が唐津、泉という斯界の頭学から教えを乞うて成果に結びつけることができたのはまことに嬉しいことでした。

事例3 播但自動車道 新神戸トンネル

わたしの赴任と全く同時期、昭和 45 年に国において地方道路公社法が成立され、46 年 3 月と 4 月に神戸市道路公社、兵庫県道路公社があいついで設置された。

- ・兵庫県道路公社播但自動車道 昭和 48(1973)年 11 月 1 期区間砥堀-福崎北間開通
- ・神戸市道路公社新神戸トンネル(延長 7,900m) 昭和 51(1976)年 5 月 開通

新神戸トンネルは前年に共用を開始した中央自動車道恵那山トンネル(8,649m)につぐ長大トンネルでした。

照明機器メーカーは名神高速道路の建設にあたり国土交通省の道路トンネルの照明設計指針づくりに参画していてこれらの道路やトンネルにはそれらの成果が採用された。機器が現場に設置された後、設計通りの性能が出ているのか現場試験を経て受け渡し完了となる。新神戸トンネルでは「照明研究所」の照度測定試験車を走らせて全線



の照度を測定した。

これらの道路公社の初期路線にはすでに名神自動車道で実績のあった照明ランプ、器具、直流電源装置、無停電電源装置などの装置を納入させていただいた。照明ランプは高槻の松下電子工業、照明器具は門真の松下電工、直流電源と無停電電源装置は阪急淡路の三社電機製作所内に併設された蓄電池事業部が製造していた。現場に納入する設備機器は設計仕様との整合とともに、現場でのインターフェイスが重要で納期やインターフェイス条件を正確に製造側に伝え調整しなければなりません。プロのタクシー運転手は前方二、後方八に目配りして運転していると聞いたことがあるが、一品一様の設備機器も全くその通りで、後ろからついてきてくれる製造事業所とのコミュニケーションには顧客と同等かそれ以上に気を使った。その点これらの事業所はすべて通勤圏にあり打ち合わせは大変便利であった。

当時松下電器はトンネルの換気システムなどへ送電する6KV以上の高圧受配電設備は実績がなく、M社、T社、H社、F社といった重電グループの一角に参入することが大きな目標であった。そこですでに県の播但道路には低圧配電盤の実績があったので次に建設されている「遠坂トンネル有料道路」に目標を定めて地道な営業(指名)活動を行っていった。その結果、昭和51年春に県の入札指名を得てめでたく受注することができた。ところがこのころ目いっぱいの案件をこなし、総額4億円以上の仕事をかかえることになり身体に異常をきたしてしまった。

結局病気の快復に一年を必要としてしまった。このことは人生観を変えるできごとであったので機会があれば別に記したい。

山とスキー

◇同豊会

豊中高校から同志社大学に進んだ同窓に「同豊会」という集まりがありました。この中に金沢茂七(旧制豊中中学4期)という大先輩がおられた。金沢さんは若い頃よりこよなく山とスキーを愛されていました。戦時中軍に徴用されたが身体が万全でないと称して「鳩舎」係を担当されたという。大阪市北区で小さな種苗の商いをされていて、冬になると山へ入りスキーを楽しまれた。確か日本山岳会員ナンバーが17番と聞いたことがある。私の20代にはこの金沢先輩にご一緒させていただいたスキーツアーが思い出深い。

同豊会の旧制豊中中学第4回には金沢茂七氏の他に粹なロータリアンの里見玄次郎氏、第5回には船場で組合理事長をされていた飯田吉之助氏がおられた。次期世話役にすいぶん私を推していただいたがその役を受けられなかったのはまことに申し訳ないことでした。

◇カナダスキー(S48年3月)

松下電器に入社し40,000円の初任給をいただいて3年目、金澤先輩に声をかけていただいてドッドウェル社主催の10日間のカナダスキーツアーに参加した。当時(昭和48年3月)1ドルが360円の時代で、ドッドウェル社の旅行代金は30万円であった。羽田からバンクーバーに飛び、まずはバンクーバー郊外のウィッスラースキー場で滑った。ウィッスラースキー場は今では巨大なスキーサイトに成長しているが、その当時エリアは広大であるが簡素で素朴なスキーサイトであった。

その後バンクーバーから大陸横断鉄道でジャスパーに至りカナデアンローッキー山脈をバスで観光しつつ、マーマットベイスン、サンシャインビレッジ、バンフ、とローッキー山脈の核心部を滑った。バンフでは古城の趣があるバンフスプリングスホテルに投宿した。旅行中日本人に出会うこともほとんどなかった。

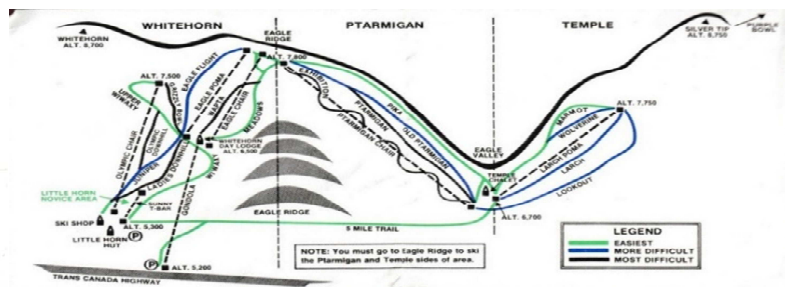


NPO 法人
リタイアメント情報センター
Retirement & Information Center



THE BIG FRIENDLY GIANT OF
CANADIAN SKIING
WITH ITS THREE MOUNTAIN FACES

SNOW REPORT PHONE (403) 262-9707
LAKE LOUISE SKI AREA PHONE (403) 522-3555



上 ウィッスラースキー場 下 金沢 茂七さん

◇雪倉岳滑降(S49年4月)

長野県桧池スキー場から白馬大池まで登り、スキーにて蓮華温泉に至る。この蓮華温泉を拠点に雪倉岳北面を滑降するプランである。標高1475mの蓮華温泉から標高2611mの雪倉岳まで高度差1100mをスキーを担いで登り滑り降りる、早朝に出発して夕刻に帰着するハードな山岳ツアーである。蓮華温泉は積雪期にはスキーでしか行けない秘湯中の秘湯である。雪倉岳に登った翌日は前線が通過して大荒れの天候。その日は蓮華温泉に滞留して翌日スキーにて降りるところまで下った。雪がなくなったところで近くの民家で電話をお借りして平岩からタクシーに迎えにきてもらった。わたしはこのツアーを契機に蓮華温泉ファンとなり、この年は夏、秋と三度訪れた。



◇八甲田山滑降

エベレストをスキーで滑降した三浦雄一郎氏の親父さんが三浦敬三氏である。青森営林署に勤務されていた三浦敬三氏と金沢茂七氏とはほぼ同世代で古くからおつきあいがあった。二人の日本山岳スキー巨頭にガイドをしていただいて八甲田山をツアーした。

八甲田山スキーツアーは千人風呂で有名な酸ヶ湯温泉をベースに八甲田ロープウェイにて山頂まで昇る。夏には湿原となる田茂沼の雪原を横切って赤倉岳、井戸岳を経て大岳(1523m)の一枚バーンを楽しみ、小岳と高田大岳の鞍部(1322m)から猿倉温泉口(870m)へと降るコースである。八甲田山は本州北端の山群なのでそれぞれの山頂から樹林限界を超えた見渡す限りの一枚バーンが連続していて遠慮なくシュプールを描くことができた。現地を熟知されたガイドに案内していただくのは山岳ツアーをする場合最大の安心である。山を降りて青森駅から「特急日本海」に乗り込むとすぐに眠りににつき、気が付くと列車は琵琶湖のほとりを走っていた。

◇乗鞍山撤退

乗鞍高原スキー場から位ヶ原、桔梗ヶ原を経て2600m峠越えをして平湯温泉に降るルート。高所をトラバースする難度の高いプランである。この日は天候が芳しくなく谷筋を抜けたところで風や雲の様子をうかがった。これ



より先に進むのは危険と判断して引き返した。目標を白骨温泉に変更して投宿した。山岳ツアーにはこういうことも想定内である。白骨温泉の濁り湯を楽しんでそれはそれで記憶に残る山行となりました。

◇山とスキーと職場

松下電器神戸支店は5階建てで市販、住設、特機とジャンルごとに三つの営業部門とショールームが入っていた。自然と山好きが誘いあって登山やスキーに出掛けました。改めて登山とスキーに出かけた日数を書き出してみると、昭和47年は30日と48年は27日入山している。スキーシーズンは官公庁の仕事の超繁忙期と重なりますが、仕事も遊びもよくこなしていたと感心します。



三重県大杉谷



黒部下ノ廊下十字峡

《 NO48 号に続く 》



10. 北米 1 (世界 1) に成った途端 「ジャップ!」と言われた(1980)

会員 赤神 潔

毎年、良譲と淳子が夏休みになるのを待って、二人に手伝って貰って、ミンクにワクチン注射をした。小ミンクが親から乳ばなれて、親の免疫力の恩恵を受けなくなった頃を見計らって、素早くワクチンをしなければならぬ。早すぎると親の免疫力が邪魔をして、折角のワクチンの効力をなくしてしまう。遅すぎると、子ミンクが免疫力のない危険な状態に長く置かれることになる。

ディステンパーの乾燥粉末ワクチンと腸炎の液体ワクチンは、ディステンパー・ワクチンのガラス容器の中で混合してから皮下注射することになっている。特に、ディステンパーは効力を弱めたヴァイルス、腸炎はその弱めた毒素が入っていた。

その年から、スードモニアス肺炎の弱めた毒素の液体のワクチンも買えることになり、例えその肺炎の原因になり易い七面鳥がチキンに混ざって配達されて来ても心配要らなくなった。

しかし、その分、小柄な富美子は大変で、右手にディステンパーと腸炎用、左手にスードモニアス肺炎用と2つもスピード注射器を持って、2個のワクチンのピンは左右両方の白衣のポケットに入れて、それから伸びるゴム管に気を配りながら、2丁拳銃並に頑張らねばならなかった。

淳子が「籠の扉を閉じている2個の小さな堅い Hog・リング(針金の閉め具――用心のための)を速やかにプライヤで外し、私と息を合わせてタイミング良く、扉の止め金を引き、籠の上部にある扉を開けた。同時に、籠の中にいる親と、見分けがつかない程生長した子ミンク数匹が1度に逃げようと籠の中で飛び跳ねる。中でも扉を開けた籠の入り口で、飛び抜けて力強く、す早く、子ミンクを自分の行動で威嚇している奴がメス親だ。私は間髪を入れず、まずそれを掴まえる。子ミンク達は籠から飛出さず、籠の底の方で飛び跳ねながら、自分達の親ミンクの反応を観察し、学習している。富美子はその親ミンクの両脇に間髪を入れず別々のワクチンを注射し、私がその親を移動用小籠に入れ、その扉を閉め、横に置く。

次に、私はどうにか頑張って、右の手と腕で、逃げようと暴れ回る3〜14匹の子ミンクをどんどん捕まえて、左の二の腕と手でそれらを籠の上に次々と1列に続けて押さえ付ける。そこで富美子が機関銃のように、次々と暴れる子ミンクの両脇を目掛けて、私の両手を避けて注射した。

その籠の中の全ての子ミンクが私の左腕と左手と籠の間に次々と順番に押さえられて注射が終わると、元の

籠に雄雌 2 頭子ミンクを戻し、残りの子ミンクも雄雌 2 頭づつに分け、1 頭残れば小屋の外側の雄 1 匹の列又は、雌 1 匹の列の籠に振り分けて、放り込む。良譲と淳子が早い者勝ちに、ワクチンの終わったミンクの籠の扉をすばやく閉め、Hog・リング(用心のための)をとめ、メス親と残った雌雄の子ミンクを後で他所の小屋、メス親専用の小屋へと運んで行った。

こうやって我々は、1 日の日課を済ませた上に、1800 頭位のワクチンを毎日こなすことが出来た。家族 4 人が、瞬間、息を止めるような、全身の筋肉と神経の緊張の連続に、長時間(約 10 時間)耐え続けた日々であった。親が暴れる動物を相手に、狂気のように真剣で、どんなに疲れても機械のように正確に猛烈に働く相手を、子供達は文句も言わずに、終わり迄延々と続けた。

1 旦ミンクが逃げると、私の手と体は飛球を追う野球選手のように、瞬時に反応したし、体を使ってミンクと同時に反応して飛びつけば、4メートル位以内にいるミンクは絶対に逃がすことはなかった。何と!我ながら、機敏であったことぞ!

しかも、4 人ともミンクの臭いガスの噴霧を全身に受けていた。

同じ年、当時、BC州で最大規模のダン・パイルさんの飼育場でディステンパーが大発生した。使用人が多数いるのに、3 つのワクチンを1本の瓶に混ぜて 1 本の注射器でワクチンをしたため、注射をする前にスードモニアス肺炎(一種の肺炎)ワクチンの中の保存液、エルドハイドで、折角のディステンパーの効力を弱めたヴァイルスを全部殺してしまったらしい。

コンピューターを良譲のために買って、昼間、彼が学校に行っている間に、それを勝手に拝借し、只、経験と感だけに頼らず、2 つ工夫したことがあった。各々の餌の材料を少しずつヴァンクーヴァー市と米国ミネソタ州の検査場へ送って、アミノ酸と脂肪の量を分析して



もらった。そしてその結果をコンピューターに入力し、全ミンク屠体のアミノ酸分析表と脂肪率を入力し、毎日実際に作る餌の各々の材料のアミノ酸比率と比較した。勿論、季節的な脂肪、蛋白、炭水化物の必要量を守りながら、毎日作る餌の中のアミノ酸の配合が、全ミンク屠体のアミノ酸の比率に出来るだけ近付けるように努力した。

もう、ほとんど忘れてしまったが、出回っている餌の動物副産物にはアルギニン(アミノ酸の1種)が豊富過ぎて、スレオニン(アミノ酸の1種)のある材料(酵母とフェザー・ミール以外)が極端に微小だったようだ。それに、毎朝作った餌のサンプルを実際に少量取って、毎昼食時に脂肪率を調べた。餌のサンプルをオーブンで加熱して水分を取り、目方を計り、乾燥したものを乳ばちと乳棒で細かく砕き、エーテルとセラミック・フィルターを使って脂肪分を抜き取り、乾燥を待って目方を計り、重さの減った分を脂肪と言うことにした。1度使ったエーテルは、後程蒸留して再生した。

餌の材料の種類が多様で季節によっても脂肪率が違うため、実際に毎日作った餌のサンプルを取り、直接調べる必要性があったのだ。餌には色々あって、牛(胃袋、肺、肝臓、牛脂)豚(肺、肝臓、脾臓)馬(ミンチ、肝臓)鶏(全鶏、全廃鶏、首と背中、内臓、水洗内臓、皮、肝臓、羽根ミール)、七面鳥(内臓、肝臓、首背、皮)アヒル(内臓)鶏卵(冷凍、乾燥)穀類(全小麦、全大麦、全カラス麦、小麦ふすま、大豆ミール、ビーツ・パルプ、スキム・ミルク、砂糖、酵母)魚類(全魚、頭と骨と内臓、スクラップ、皮)(ドーバー・ソール、ペトロ・ソール、砂ソール、スライミー・ソール、——カレー)ターボット、ハリバット、レッド・スナッパー、ブラウニー、真ダラ、ハイク、スケソウダラ、銀ダラ、サーモン(内臓、頭、ベニ鮭、銀鮭、キングサーモン、チャム・サーモン、全菜卵・サーモン)、マス、フィッシュ・ミール(いわし、片口いわし、にしん、サーモン)その他等、季節によっても、その魚の食べている餌の違いに依っても、各々脂肪量やアミノ酸の量が不定であって、ミンクの脂肪必要量もシーズンによって違いがあった。

朝早くからアミノ酸の比率に合わせて、餌を作り始め、その日の餌の脂肪率は昼飯を食べている間に調べたので、昼飯の後、餌をミンクにやり始める前、直ぐに

添加すべき油の量が計算出来た。脂を添加する前に必ずレシシンと混ぜてから、ミキサーに入れた。私は、食用の大豆やカノーラのサラダオイル、ひまわりサラダオイルや動物飼料用動物油脂をドラム缶で買い、勿論、レシシンもドラム缶で仕入れた。

ミンクの餌のアミノ酸比率もファット(脂肪率)もミンクの成長や毛皮の質に重要であるとは思っていたが、それより、最初は経済性を考え、大量の無駄な排せつ物を少しでも減らすことがその目的であり、無駄な排せつ物が減れば、それから出る臭気も、温暖化ガスもへるだろうと思っていた。

そのようなテストをするのが、また本当に面白かったし、多分こんなことをしているミンク飼育者は、少なくともカナダやアメリカのどこにもいないだろうと思うと一層愉快になった。

魚をスタン・シーヴスさんやダン・バイルさんだけに頼らずに、ワシントン州のベリングアム市にある、シーパック社(鮮魚の加工場)とプレーンにあるパウンダリー社まで自分で取りに行くようになった。カナダのフィッシュ・スクラップは餌屋のスタンとダンが既に契約していたからである。それまでパウンド当りスタンに7セント払っていたが2セントになり、しかもうんと新鮮になり、毎日、どのような魚が餌になるのか分かるようになった。

魚のあらは、魚から2枚のフィレットを取った残り、全の重量の凡そ3分の2は「あら」となり、氷と1緒にアルミニウムのトウトにおよそ500キロずつ入っていた。3トン・トラックにいつも大体トウトで6個位持って帰って、飼料調理場で直ぐに30馬力のチョッパーですり潰し、50パウンド(約25キロ)ずつ袋(2重の袋—外は紙、内は薄いプラスチック)に詰めて鉄製のラック(自家製の冷凍用の移動可能な棚——アングルアイアンを買い、自分たちで溶接に手で持ち上げ、載せ、フォークリフトで急速冷凍庫に入れた。

牛肉副産物も米国ワシントン州のファーンデル町にあるフェリス兄弟社(屠殺加工会社)まで取りに行った。富美子と2人で朝3時に起きて、半分眠ったまま3トン・トラックでファーンデル町まで行くと、前日の牛の肝臓(1つにつき約15キロ)とトライプ(牛の胃袋1つにつき約25キロ位)が約3トンばかり



七面鳥を処理していたが、七面鳥の肝臓は、ベトナムの避難民が来るまで、全部うちに来て、1週間に1トンあまり、うちのミンクが食べた。鶏卵はマウント・リーマン町にあるヴァンダーポール鶏卵社へ買いに行った。私は日本の商社が日本のケーキ屋さん向けに買う卵を競り合った訳だ。大抵の場合、鶏卵市価調整機構が値段を調整するために廃棄処分する新鮮な物を買ひ、これは20リッター入りのバケツに入れて冷凍してあるものや、スプレイ乾燥した粉末で、1日1000パウンド(約半トン)位加熱したり、バイオティンと混ぜて使用した。

クーラーにぶら下がっていた。私がそれを、両手で持てるだけ抱えて持って、狭い通路を駆け抜け、駐車場まで行き、満身の力を振り絞って、胸の高さ程のトラックのタープを敷いた荷台まで投げ上げると、富美子がぎりぎりの前傾姿勢を取って、それを全力で馬車馬の如く、1つずつトラックの奥の方へ引きずって行った。

ブレーンのカナダ国境で獣医の検疫を受け、朝7時には家に帰った。飼料調理場で持って帰った牛の胃袋と肝臓を素早く鉄製の自家製のラックに手で薄く広げて載せ、フォークリフトで急速冷凍庫に入れた。これを週に3度やった。

鶏と7面鳥の背骨と首のあらと肝臓は、アボッツフォード市のリリデール社から買い、肝臓は食用で、薄い段ボール箱入りで、冷凍してあった。背と首のあらは冷凍ではないので、直ぐに魚の様にフォークリフトを使って、チョッパーですり潰して、バガー(袋詰め機)で袋詰めして、手でラックに載せ、フォークリフトで急速冷凍庫に入れた。その工場では、BC州の全

アルバータ州のレッド・ディアー市にあるアルサスク処理会社から、これも日本の商社が、日本向けに買う馬肉と馬の肝臓を買うことになった。電話の向こうで、「日本人が馬のペニスと金玉まで、食通の通う東京の有名レストランの為に買って行く」と、吹き出した。これは全て50パウンド入りの段ボール箱入りで冷凍しており、45フィートの冷凍車で買い(20トンから30トン)、近くのマスキイ冷凍社に預け、必要に応じて、週1度3トン車で取りに行った。

魚粉も、鮭(西海岸)やニシン(東海岸、ノヴェスコシャ産)を使った。鶏の尾、背骨、首のあらも、そのうち脱骨処理ですり身になり、マクダナルドのチキンになったり、日本へ食用として輸出されることになった。1つ工夫して、美味しく行ったことがあった。色々ある餌の材料の中で牛の胃袋は比較的安価では有るが、細菌カウントがとりわけ高かった。牛の胃袋自身の表面積が異状に大きく、その上、屠殺場やハム会社から出る副産物は、何れも洗浄されていなかった。それを極力速



やかに 1 度、冷凍保存し、少しずつ、解凍して、使うことになるのだが細菌カウントが非常に高いため、通常、餌の全量の8-10 %しか使えなかった。通常は、全ての材料をすり潰して 20 トンの容量のミキサーに入れ、穀類、ビタミン、ミネラルを添加し、酢酸またはリン酸でPHを加減し、最後に水分を調整した。

私は酸を終わりに唯添加せず、牛の胃袋をすり潰す前に、中国製純度 98%食用酢酸カリウムを 10%~15%位の濃度に薄めたもので洗った。黒く汚い牛の胃袋が 1 瞬に白く変色し、奇麗になった。酸は汚くなったが、最後にそれも捨てずに餌に入れた。

ある夜 11 時頃、寝る前にいつものように疲れた体に鞭をうち、富美子と一緒に懐中電灯と修理に必要な小道具を持って、ミンク場を見回りに行った。1万頭以上もミンクがいたら、必ず何かがあった。水呑みニップルが漏れたり、潰れたりして、早めに気付いて修理しないと、ミンクがすぶ濡れで死ぬこともある。見附次第直ぐに修理しないと、井戸が空になるかも知れない。漏れた水で次の日、小屋の中の通路がぬかるみになることもある。完璧である筈のニップルのゴムのシール(弁) (デンマークから取り寄せた) が、時には劣化して、弁が閉まったままくっついて水が飲めず、どことなく動きの鈍い、鼻の乾いた脱水症状のミンクが出て、その発見が遅れると、死ぬこともある。

大体は、籠の天井部分に付けた、そのニップルをパイプから外して分解し、劣化したゴムのシールを指できれいに掃除して取り除き、手早く新しいゴムシールに替えて回るのだが、我々を威嚇するために飛びついて来て、籠に噛み付いたミンクの牙が水を止めるためにパイプの穴を指で押さえながらそれを籠から離すように持ち上げている我々の指から数ミリ所で、ガチガチ音を立てている。

古くなって錆びた籠の 1 部を破って外に出て、近くのミンクに大喧嘩を売っている奴もいた。

餌をよく食べるもの食べないもの、細い歯に魚の大きな背骨の輪を突っ立てたり、七面鳥の輪切りの気管が(指輪が指に入るように)舌の奥まで入り込み、血液の流れを制限し、舌が数倍に腫れ上がり、自分の爪で引っ掻き、それが取れずによだれを出して苦しんでいるもの、私達が籠の上にやった餌を自分でせせと運んで籠の底の隅に貯えようとして、餌を全部かごの編み目から地面に落してしまっ、餌を探して走り回っているものもいた。

るものもいた。

隔壁の下から隣のミンクの尻尾を引き込んで、お互いに大騒ぎをしているものなどもあった。

タヌキも猫もスカンクもフクロネズミもフクロウもミンク場に侵入して来た。

一応 40 分ほどかけて、2人で手分けして、10 棟の小屋約1500メートルx4列程を駆け足で修理して回り、最後の小屋を外へ出ようすると、我々に家から付いて来たチワワ犬の雑種が近くのフェンス目掛けて走り出し、けたたましく吠え出した。ミンク場の周りには、夜、籠から逃げたミンクが他所の農場へ逃げ出さないように、細かい網目の地上 4 フィートと地中 1 フィートの第2フェンスがあり、その最上部は、爪で掻いて登り切れないようにブリキまたはアルミナ板の 1 フィートとで出来ていた。道路脇の側溝横の荒い第1金網フェンスからおおよそ 300 フィート(100m)入った所である。その私達がいる小屋から僅か 20 フィート(7, 8 メートル)の第 2フェンスの辺りで突然「今夜は、犬がいるぞ!」と警戒のない、素直な若い男の大声がした。

一旦登ったフェンスの上から、犬を避けて、元の場所へ飛び降りる複数の重い足音がした。慌てて、持っていた小さなフォーテン・ショット・ガンを屋根の棟キャップの隙間から、空中へ向けて発射した。賊はその音に驚いて、1 目散に道路へと逃げた。私は小屋から横っ飛びに飛出して、中腰に構えて、道路とミンク場の間にあるメープルの森の上部を目掛けて、フォーテン・ショット・ガンを数発撃ち込んだ。

翌朝、警察に電話で報告して、賊の逃げた辺りを俯いて見て回っていると、草の中からスティール・トウ・ブーツの鉄のつま先部分と、空の赤いプラスチックのガス缶(ガソリン用の入れ物)を 2 個見付けた。そこへ、私の背後から、白人のポリスが追いついて来て、「ユー・ガッツ・ユワセルフ・ア・ガス・キャン(ガソリン入れを拾ったのか)」と、言い、平然としていた。彼に依ると、「近隣の農場はガソリン泥棒が多くて、君のようなケースはまだ良い方で、ガソリンのホースの先のノズルに鍵をかけておくと、ホースをナイフで切って、ノズル部分を切り落とし、要るだけガソリンを取った後、ホースをそのまま地面に放置しておくケースがあった」とか。通常、農業用ガソリンのタンクは 2 メートル程の高さの軽量エル型鉄鋼製のやぐらの上に設置してあ



り、落差を利用して、農業用自動車や作業車に給油する仕組みだから、「200 リッター程のガソリンが全部地面にこぼれて、危険さきまりない、お前は非常にラッキーだった」そうだ。

私達のミンク場は丘の上にあった。ガソリン・タンクは飼料調理場から坂を少し登った、ミンク場の入り口にあった。もし、ガソリン・タンクのホースからガソリンが流れ出ると、粘土質の坂についた給餌機のわだちの跡を伝って飼料調理場へ流れて行く。調理場には2機の冷凍機用のタイマー2個があり、数時間置きに接点が自動的にスパークするため200 トンの冷凍庫は全焼していただろう。

1979 年秋7638 枚出荷。また剥皮の時期が来て、使用人のリックとパムが普段のミンク場の仕事をせずに、暖房の利いた部屋で、朝から夕方まで、自分達だけで剥皮を始めた。スキニング・ルームは我が家のカーポートの西横にある2部屋の小屋で、ドライブウェイの正面にあり、ミンク・ヤードから凡そ 200メートルの場所にあった。私と富美子は手分けして、普段の仕事(夜中に逃げ出したミンクを捕まえ、逃げ出した籠を見つけ、修理し、ミンクをそこへ戻し、前日にやった餌の残りを全てのカゴの上から削り取り、餌作り、餌やり、次の日の餌の材料を冷凍庫から出し、漏れている水呑みニップルの修理、巣ぐさの補給、その他のミンクの世話等)と、リックとパムの 2 人の分の普段の仕事の上に、ミンクを 400 頭位殺し、死んだミンクをかごの上にきちんと伸ばして冷まし、死後硬直で硬くなってから剥皮室へ運んで、剥皮部屋2室の内回り3面宛の壁沿いにある5段ずつの棚の上にキチンと並べた。

皆が帰ってから夜、自分たちで剥皮する分(約 500 頭)も殺して運んだ。剥皮部屋で剥皮をしている彼等の作業台の前の壁には穴が開けてあり、穀類のジュウト袋の底を切り抜いてリサイクルした、筒状ののれんが吊ってあった。剥皮係が剥皮を終えて、堵体をその穴から外に投げると、その筒状ののれんに誘導されて、外にある空のドラム缶に、自然と入るようになっていた。リックとパムは以前からミンク・ヤードの中で、時間給で働いていたので、何時も朝8時から夕方5時まで 8 時間掛けて、各々100 匹ずつ剥皮し、その後、2 時間ぐらいのピー ス・ワーク(一匹 25 セント)で 100 匹ずつ剥皮して帰って行った。

私は彼等が帰った後、夕方 6 時頃から翌朝の 1 時

頃まで かかり、1人で 400 から 500 匹位毎晩剥皮した。無論、富美子は側であれこれ手伝ってくれた。ある時、淳子がタイムを取ると、私は 1 時間にメスを 100 匹スキンしたことがあった。いつも、寝る前にその日剥皮した毛皮が冷たく冷めてから、1枚ずつ丁寧に毛表に丸めて袋に平に入れ、冷凍庫のコンクリートの床に一列に並べて入れ、鍵(毛皮盗難保険の為)かけた。

その年は、我々のいるフレーザー河口付近の平野地では、記録的な寒波の年だったようだ。どうにかこうにか剥皮が終わる日、私が剥皮部屋に入った瞬間、リックはまだ剥皮の終わっていないパムの背中の方を見て、笑って、「愉快だったなあ！」と大声で言った。

前の日、ウエストコースト・リダクション会社がミンクの堵体を取りに来て、20 個程あったドラム缶が空になった。私がドラム缶を扱う大きな音に気付き、ミンク場の中から300メートル程離れたスキニング・ルームへと急いで向かうと、トラックの後部でリックとその白人の運転手が立ち話をしているのが見えた。私が彼らに近付く頃には、運転手は私に手を挙げあたふたと立ち去った。この時、少し運転手の動き(バディー・ランゲージ)が、何処となく変で気になった。いつもは、何パウンド堵体があったかを伝票に印し、私にその伝票を手渡して帰るのだが、私がそこまで来ているのに、それをリックに渡して立ち去った。

ウエストコースト資源還元会社は普段、屠殺場、ハム加工業者、魚類加工業者、チキン加工業者を特殊トラックで周り、この時期他のミンク飼育場と毛皮剥皮乾燥会社も周っていて、動物蛋白、脂肪資源の回収業者で、ミンクの脂肪は高価で大切な資源の 1 つであった。

パムは、身長が私と同じ180cm位でがっちりとした体格の男だが、おとなしく臆病なインド系カナダ人の農業労働者で、こそこそと帰って行った。リックは、痩せた小男のスリした白系カナダ人労働者で、陰で何をするか分からない男だった。リックがチェックを買っても、なかなか帰らず、何度も表に停めてある自分の車に行ったり、剥皮室に戻って来たりして、にこにこして、「もうここの仕事は辛いから辞めたい」と、笑いながら言った。始めは忙しい時期に、そう言って、私を困らせて喜んでいるくらいに思っていたがしかし彼が帰ってしまったから、何故か妙に気に掛かった。あの「愉快だった！」と言った口調と、「止めたい！」と言う声明が相反していて、病的に謎めいていて、なぜか引っかかる。



り変に思えた。パムが何も言わないで、チェックを貰うと、私に目を合わせず、にこりともせず、こそこそと帰ったのも謎めいて、変に思えた。我々がミンク場で忙しくしている間にパムとリックが2人きりで、何かがあったに違いない。

自分で猛烈に剥皮をしながら色々と考えて見て、はっと気付いて、懐中電灯を掴み表へ出た。剥皮部屋の裏へ回って堵体用のドラム缶を覗き込むと、そこには、ミンクの屠体が零下の外気のなかで、血なまぐさい、湯気を上げていた。隙間を覗き込んで奥を見たが、別段ドラム缶の中の、上の方は普通のようなだった。剥皮部屋に戻って富美子に、堵体用のドラム缶の底の方が気になる」と説明して、「ドラム缶を引っくり返そうと思うがその間、懐中電灯を持っていほしい」と言うが、富美子は眉に皺を寄せて、「血だらけで汚いから、どうか探してみるのはい止めて!」と言った。「それでは自分1人で、なんとか工夫して、出来るから」と、汚くて臭くてその上重くて、躊躇はしたものの、我慢して懐中電灯を大口に食わえて、足下が雪でおぼつかないが、ドラム缶を1気に引っくり返した。

底から剥皮していない綺麗なメスのミンクが11匹(約\$1000 ドル)、固まって出て来た。毎日、彼らは、我々が、ふらふらになるまで必死に頑張っているのをあざ笑いながら、我々のミンクを剥皮せずに捨てて、喜んでいたか、既に、そのミンクの買い手が居たのだ。シーズン中に全部で何匹捨てられたか分からなかった。ウエスト・コースト資源還元会社の運転手が、遠くのミンク場から、そこまで来た私をよそ目に、慌てて帰ったのも頷けた。彼は、ドラム缶の中身を自分のトラックに空ける際、剥皮のしていない、ミンクに気が付いていたに違いない。私達はこのようなことが起り得ることすら知らなかったのだ。

思い出してみると、私は気にしなかったが、アイヴィンはいつも目を光らせていたようだった。例えばダンプ・トラックで砂を買う時も、アイヴィンは先ず、やって来たトラックによじ登って積荷を覗き込み、必ず砂の量を一々確認してから、運転手にダンプさせていた。我々は運転手に50台分砂を持って来いと指示して、始めの1、2台はアイヴィンの様にチェックしたが、忙しいものだから、後の48台分は運転手任せだった。

ひょっとして、我々の捨てられたミンクは買い手が

あったのかも知れない。いや、絶対あったに違いない。夏に死んだミンクでも、ミンク飼育者を回って、買いあさる業者がいるのだから。(ミスター・ゴールドバーグが買い、レン・グラヴェルさんがその剥皮乾燥作業をした。)

捨てられたミンクは全てメスで、メスは小さくて、剥皮は柔らかくてしやすく、オスは重くて、剥皮は固くてが大変だった。ただ、腹いせで捨てるなら、オスを捨てたであろうし、市場ではメスの毛皮の方がオスよりうんと値段が良かったのである。ミンクの毛皮は乾燥処理して、ライセンスを持っている者でないと売れない。

例年と同じように、剥皮が終わると、丸めた毛皮を紙袋に1列に平たく詰めて冷凍し、ワシントン州エドモントンにあるボルツ毛皮乾燥・仕上げ会社に、アイヴィンと一緒にトラックで出荷した。出来上がった乾燥ペルトは、社長のボブがシアトル・ファー・イクスチェンジ(オークション)会社へ、自動的に出荷して呉れることになっていた。(1979年全ミンク11488頭の収穫7638枚)1980年2月オークションの当日、朝3時に起きて、走り回って3時間程でミンク場をチェックして、子供部屋の子供達の寝顔を覗き、富美子と2人で、アイ5号国道を南へ、シアトル市まで、フォード・スーパーキャブ小型トラックで走った。子供達は2人で、好みのTV・ディナー(冷凍パック料理)をオーブンで暖めて、食べるようになっていた。朝のラッシュ・アワーに、シアトル市の中心部を縦断するアイ5号国道を奇跡的にうまくすり抜けて、サウスセンターにあるシアトル・ファー・イクスチェンジ(オークション)社にいつものように9時前に着いた。

アイヴィンとキャレンとアンマリーは前の日から、サウスセンター・モールのオークション会社の前にある、ダブルツリー・イン(ホテル)泊まりで、飼育者達と世界中から集まったバイヤー達の盛大な前夜祭に出席した模様で、多くのカナダ人やアメリカ人飼育者の友達に囲まれて、楽しそうだった。

オークションは、毎年、だいたい週末を挟んだ3~4日で、年に数回あり、我々はその日のオークションが終わると、夕方、家まで走って帰り、子供達の世話と、ミンクの世話をして、また明日、早く起きてタコマまで、来なければならない。

オークション会社のロビーに入ると、直ぐ毛皮乾燥仕上げ会社の社長、ボブ・ボルツさんがビジネスの礼を言いに来て、「今年のジミーのデミバフ・ミンクの出来は、革が薄くて、



綿毛が長く、密度が良くて、抜群だ。色も良く、毛皮の束も大きくて、1つの束が150から240枚位ずつで、きれいなものがある。」と言った。さすがに、翌年も毛皮乾燥仕上げ会社に出して貰うためのお世辞が上手く、そつがないと思った。

オークションがいよいよ始まって、どこの飼育場も平均50ドル台(毛皮1枚の値)が出ていた。どうも、その年は、ミンク毛皮の値が良いようで、少し安心したが、それでも、ドキドキしながら、カタログを調べ、昼食後、1番に始まる自分たちの番が来るのを、丁度、裁判の判決を待つような気持で、待たねばならぬ。もしオークション・セールの前夜祭とも言えるパーティーに出席していれば、自分達のミンクの風評を知ることが出来たであろうが、我々はそれに呼ばれていなかったのだ。

昼食が終わり、午後になって、午前中のセールの朗報を聞き、ますますバイヤーや飼育者が増えて来て、建物の中は寿司詰め状態になり、いよいよ我々の番からオークションが始まろうとして、突然、オークション二アが午前中と替わり、オークション会社、社長ゲアリーがオークション台に立った。

最初のバンドル(毛皮の束)が25セントずつどんどん競られて、70ドルまで行き、これはいけそうだ!と思っていると、次のバンドル(毛皮224枚の束)は1枚につき50セントずつ80ドルまで上がっていく。

そこから急に、競り値が1ドルずつに変わり、18回競り値が会場で上がって、98ドルまでいって、大騒ぎとなった。

どうも、2週間前のニューヨーク市のハドソン・ベイ・オークションのデミバフ・ミンクのトップ・バンドル、有名な米国人飼育者ラリー・フライ氏出荷のミンクの、1枚につき96ドルを2ドル超えたと、騒ぎ出した。残りのバンドルもどんどん飛ぶように売れて、1番悪いはずの傷物まで、沢山のバイヤーが熱心に競っていた。カナダのヴァンクーヴァー島のアイヴィンと仲の良いミンク飼育者のハーマン・ヴォルクとパーシーの2人が、昼食を早く切り上げて、私の近くに来ていて、ハーマンがドイツ語なまりで、「でかした!でかした!」と私の手を握って放さなかった。

彼らは、前夜祭のパーティーにアイヴィン達と出席していたに違いない。周りにいたアメリカ人飼育者た

ち(目立たない普通の飼育者)が握手を求めて来て、私は両手を握られたまま、俯いて一言、「早すぎる」と小声でつぶやいた。有頂天にならないように、自分をいましめようとしたのか、日本人特有の反射的な『謙遜』からかも知れない。ハーマンがそれを聞き付けて、人混みの騒音に負けじとバカリ伸び上がって私を見て、「ジミー、どういう意味だ」と叫んだ。

「ミンク・ビジネスに首を突っ込んで、10年位で北米のトップになるなど、早すぎると思う」と説明したが、ハーマンは、「トップはトップだ。早いも遅いもない。

大成功だ!」と、アメリカのマーケットのトップを僅かなカナディアン出荷者の中の同僚の一人が、さらったので、自分のことのようにおおはしゃぎで嬉しそうだった。少なくとも彼と私はそう思った。

私は日本国籍のカナダ移住者で、アイヴィンもトウライフもノルウェー国籍のカナダ移住者だった。

我々が此处でミンクを生産することは、法律上何ら問題はなかったし、生産されたミンク毛皮は間違いなく、正真正銘の「北米産デミバフ」であった。アイヴィンとオークション会社員とバイヤーたちだけはその時、率直に喜んでくれた。

特に、ニューヨークの上物バイヤー、アルヴィン・グリックマンさんは、前の年、ハドソン・ベイ・オークション会社で交わした、私との会話を覚えていて、「俺が作れと、言ったのだ!」と、バイヤー仲間達に触れ回っていた。どう見ても、彼は、その満場の興奮の起因を作ったことを誇りに思っていたようだった。私も又、彼のような1流の上物バイヤーに喜ばれて、手放して内心猛烈に興奮していた。

しかしアメリカ人飼育者の、特に組合の役員をしている大物たちの目つきが急に冷たくなり、背後で微かだが誰かが、「ジャップ!」「ジャップ!」というのが聞こえて来た。その声の方を振り向くと、周りの数人のアメリカ人が横目で私の視線を気にしながら、慌ててその若い男を制していた。

その男はどうも全く現実が理解出来ず、北米でただ1人のアジア系の飼育者にトップを奪われ、当惑して、興奮している様子であった。

それにしても、あの剥皮係リックやパムに捨てられたミンク、どれだけ捨てられたのだろう。北米で最高のミンクを興味本位で捨てたか、くすねて、値打ちも分らず誰かに売ったのかも知れない。



1967 年夏、百科事典の出張セールスで、初めて生きたミンクを北海道で見てから、14 年目、8 匹のミンクに番号を付けて大阪で、クーラーを効かせた倉庫で、飼い始めてから 13 年目であった。バンクーヴァー空港に 1 人で降り立って、途方にくれてから、9 年だった。

その年 1980 年の初夏、いつものようにアメリカの毛皮業界新聞、ファー・エイジ・ウィークリーに、アメリカにあるオークション会社等で、その年に売れたミンク毛皮のトップ・バンドル賞が発表された。内心、我々のオークションが終わってから、これを待ちに待っていた。我々の名前を探したが我々の名はなかった。ハドソン・ベイ・オークション社で売れた『1 枚につき 96 ドルの米国人ラリー・フライ氏のバンドルが、今年のデミバフ・ミンクのトップだ』と発表された。我々のシアトルで 1 枚につき 98 ドルで売れたデミバフ・ミンクがトップではないのか？ 新聞を持つ私の手がわなわなと震え出して、止まらなかった。『無念だ!』それにしても、『無念だ!』

業界紙にはラリー・フライ氏夫妻とバイヤーとハドソン・ベイ・オークション社副社長達が、にこにこして賞状とトロフィーを持った写真まで出ていた。本来ならば、我々の写真がそこにあるべきだ。それを見れば、日本の親戚も友達も我々のぎりぎりの奮闘と努力を分かってくれる筈だ。

直ぐにはこのことを、台所で神業のような早さで昼食を作っている富美子には言えず、富美子に気付かれないように何でもない振りをして、郵送してきた新聞を持ったままそっと家の玄関を出た。何も知らない富美子は私の行動に気付き、不服気味に、「昼食の準備がもう 1 分も掛からないのに、今からどこへ行くの？」と後を追って来た。慣例では、アメリカンでもカナディアンでも毛皮をアメリカで売ればアメリカ産ミンクで、カナダで売ればカナダ産ミンクとなり、何ら制限はなかった。私たちのミンクはアメリカで売られて、毎年高級デミバフ・ミンクのブランドで売られたし、その後も売られた。

しかし、われわれの毛皮は、其の年アメリカのエンバ・デミバフ・ミンクのトップ・バンドル賞の対象から除外されたようだった。飼育者がカナダ人でもトップ・バンドル賞を取ったケースは幾らもあった。

強いてこじつけた違いを言えば、たまたまアメリカ人でもカナダ人でもなく、カナダに移住しているただ 1 人のノン・ホワイトの日本人飼育者だったただだ。私だけの勝手な憶測だが、アメリカ人飼育者は日本人のお客さんバイヤーが大金で自分の毛皮を買ってくれるのは大いに歓迎だが、ただ 1 人の有色人種の日本人飼育者に自分達を差し置いて、トップをさらわれることは絶対に我慢出来なかったのだろう。

私がカナダの市民権を取っていれば、少しは変わっていたかも知れないが、しかし、経済感覚の進んだアメリカ人が、オークションで決まった 96 ドルが、98 ドルよりも高値で良い品物だと主張して、『事実を曲げるにも、余りにも無理があり過ぎる』ようだ。しかも、我々のシアトルのオークションは、ニューヨークの 96 ドルの毛皮を見て来た世界の専門家達バイヤーが、凡そ、2 週間後にシアトルで出した値段だった。ミンクはあくまで北米産ミンクだった。その上、競り値には 2 ドルの差があり、97 ドルと言う競り値が存在したのである。我々のミンクは英国の古舗バイヤー・ブロンベルグ氏がミラノの老舗毛皮商の希望で「幾らでも良いから買え!」ということで競られたそうだった。

オークション会社からはこれについて何の説明もなかった。アイヴィンは『ポリティクスだ!』と言ったが、私は『クライム(犯罪)だ!』と思った。アメリカでも、カナダでも日本でも『ポリティクス』は同じかも知れない。しかし、とにかく今のアメリカのミンク業界であった話してあり、『我田引水』『本末転倒』が公然と行われている。

トップ・バンドル賞は毛皮屋さんにも飼育者にも名誉なことであろうが、オークションを目撃した何百と言うバイヤー達と飼育者達とオークション会社の職員が黙っている体質が不思議でならない。誇り高さ、アメリカ人の——誇りも、品格も、とうにもう存在しないのか。

次の年の秋の出荷前に回って来た、シアトル・ファー・イクスチェンジ(オークション)会社のセールス・レップ、ロン・ボーゲンは、私の肩を持っているかのように振る舞った。

「自分自身、事件の真相は知らされていない。あの値は、ノース・アメリカン・ミンクだけではなく、世界中のデミバフ・ミンクのトップ・プライスだった。」と言った。事実、アメリカのブラック・ミンクと、ミュティション・



ミンクは、勿論、カナダ・マジスティックを抜き、毎年、世界中で最高の値がついた。アメリカでトップを取れば間違いなく世界のトップだった。現在もそれは変わっていないと思う。それでは、明らかに『1980 年度のアメリカのデミ・バフ・ミンクのトップは世界でトップになれなかった。』ことになる。
世界中でトップになることは全然予期していなかった。

無我夢中の血の出るようなぎりぎりの、全力投球のうちに、突然運命的に起った出来事であった。
無論、第1に、英語のわからない富美子と2歳の淳子と5歳の良譲を連れて、米国まで乗り込み、必死の努力に依って信用を獲得し、スペース農場のベスト・ミンクとトライフの色の薄い質の良いパステル・ミンクを獲得したことが勝因だろう。

第2に、其れを他人にどう言われようと、企業し、頑張っ、て、どんどん増やして、大きなバンドルを自分独りで組めるまでの規模に持って行った努力にも間違いはなかった。

第3に、まだその頃には走りのコンピューターを買い、バランス良いアミノ酸比率を弾き出した事は、毛の量、綿毛の長さを左右したであろう。的確な脂肪率を毎日実際にテストして出来るだけ正確に調整した努力は、革の薄さ(軽さ)や柔軟性を左右したであろう。

第4に、子ミンクが生まれてから、剥皮まで1度も体調を壊さない、万全の管理を毎日必死に続けた努力と意地が功を奏したに違いない。

アメリカのミンクとして売られながら、しかも最高値でうられながら、トップ・バンドル賞にならなかったことをファー・エイジ・ウィークリーで知ってから、私はヨーロッパのオークション(ロンドン、コペンハーゲン、オスロ、レニングラード等)の結果に単純な興味を持っていた。

しかし、ある夜、これは私にとって個人的に特別の意味がある事に気が付いた。今まですっかり忘れていたこと、当時から約 20年程前、防衛大学校の入校式でただ1人の制服のスピーカーであった吉富 1 佐だけが、立派な来賓政治家各位の前で反論して言い切ったこと、
『卒業した後、自衛隊に行かなくても良い。日本の憲法と法律は君たちの権利を保護している。何をやっても良い。しかし、やるからには、世界 1 になれ。世界 1 になれば、国に恩返しができる。税金泥棒にはならない』

が、私の頭の中で不意に意味を持ち始めた。
海上要員に成れなかった私は、純情だったので、来賓政治家各位の勧めどおり防衛大学校を自ら中退せざるを得なかったが、それでも、ただ飯を食った分、この言葉が一時、唯一の救いであった。ミンク如きで、トップになって国に恩返しができるとは毛頭思わないが、少なくとも税金泥棒と言われたくない。

唯、自分たちのした努力が、およそ3 世代にもなるアメリカのミンク業界の本場へ乗り込んで、皆と同じ土俵(いや、色々妨害や障害に遭って)で頑張っ、て、世界中の何百(?)何千と言う同業者の誰にも負けなかったことには間違いがない。日本の日本毛皮新報(後、日本毛皮ジャーナル)(日本の業界紙・Ryuzo・阿部さん・河北出版株式会社)が「昨年のデミバフのトップの生産者は赤神氏」と、我々のことを額面通り報じた。ひょっとして、米国のミンク業界の当事者達は、私がカナダへの新移住者なので、米国のミンク飼育者の情報や米国の毛皮業界紙(ファー・エイジ・ウィークリー)等知りようがないと、高をくくっていたのかも知れない。

私は1972 年の 4 月に、約半月も掛けて、マンハッタンのスタットラー・ヒルトン・ホテルに泊まり、ニューヨークの毛皮屋さんや毛皮のミシンで有名なボニス・ミシン会社を見学していたので、カナダへ来た時からファー・エイジ・ウィークリーは、購読していた。元々毛皮業界の新聞で、ミンク飼育者には、1 部を除いて知られていなかったようだ。
ミンクの値段は、勿論、最高の品質であることと、その年の流行のシェイド(色合い)で決まる。アメリカ人はブルー系のティント(ほのかな明度)を良く好み、ブラックでもブラウンでも、アメリカではブルー・ティント(毛先の青光り)のある毛皮が良いとされた。

日本人はアメリカ人が良いと言うと、それに従うのが戦後の大勢のようだ。一方ヨーロッパの、特に地中海沿岸の国々は、ブラック・ミンクのティントはブルーだが、ブラウン系のミンクのティントは赤いものが喜ばれ、ファッションの中心地のイタリアのミラノの毛皮屋さん、英国の老舗のプロカー・ブロンベルグ氏が幾ら出しても欲しがった、我々のミンクを、アメリカの一部のミンク飼育者が当惑して、嫌った上、其れを認めることが出来なかったのかも知れない。

フライさんのデミバフ・ミンクはブルー・ティントで



我々のデミバフ・ミンクはレッド・ティントだったが、しかし、我々の 98 ドルはフライさんの 96 ドルより 2 ドル高いのは絶対明白であった。しかし、1 部のブルー・ティントのデミバフ・ミンクを出荷している飼育者には、トップの座を直に譲れない意地が働き、力づく(不正をして)でもブルー・ティントがトップを取らなければならなかったのかも知れない。以来、一部の北米のミンク飼育者はレッド・ティントのミンクを作ろうと躍起になり、この年以後、デミバフ・ミンクの中にワイルド・タイプというカテゴリーのミンクが確立したが北米の飼育者はレッド・ティントのミンクをあまり持っていなかった。大勢がブルーからレッドに向かう鉾先に、我々がなったわけである。

以前からワシントン州にある、大農場、ユナイテッド農場がワイルド・ミンクを飼っていて、彼のミンクは元々ワイルド・ミンクだから色はレッド・ティントだが、刺毛が養殖ミンクより長く、非常に毛込みがよく、それでもイタリアのファッション界は彼のミンクに甘んじていた。

そこへ、我々がワイルド・ミンクをしのぐ色合いの繊細な(綿毛が深く、刺毛が短く、密度の多い)養殖ミンクを出したのだから、騒ぎを起こしたのだと思う。ブルー・ティントのミンクからレッド・ティントのミンクが生まれる確立はあまり良くなく、大物の北米飼育者が妬んだ訳だ。

当時、米国のミンク飼育者のなかには、ミンクを飼いはじめて 3 世代位になっている者もあると言われていた。ノールウェイから来た、アイヴィンが言うには、「いつもノールウェイ国王がアメリカに来ると、必ず、ウィスコンシン州の或るミンク飼育者宅に泊まり、ウィスコンシン州の或る休日に、そのミンク飼育者の奥さんの名前が付いている」ともいった。中には、地方の銀行を持っていたり、土地の名士が沢山いるそうだった。何年か経ってから親しくしてくれたモイル氏はモイル・バフ・ミンク(ミンクの種類)のモイル氏で、私がスペース農場から買ったミンクがラルフの誇るモイル・バフ・ミンクとモイル・バフ・クロスのブルー・ティント・デミ・バフ・ミンクだった。

当時、あるミンク飼育者には飼育場が2つあって、家用機セスナで使用人と共にその 2 つの飼育場間を毎日行き来しているそうだった。

以前カナダのウェスト・コーストには、小さなミンク飼

育者が 400 軒程あったそうだが私が始めた頃は、一度毛皮の値段の悪い時期を経験して、それが 40 軒程に減っていて、残った飼育者は強情な程プライドの高い歴戦の勇士たちだったのだ。カナダ産のカナダ・マジスティック・ミンクを抜き、北米でトップを取った我々の成果を讃えて握手をしてくれた飼育者は、ハーマンとパーシー、アイヴィンとトーライフのほか 2 人位だったと思う。カナダの飼育者も明らかに嫉妬に燃えていた。

うちの銀行のアカウント・マネジャー、ワトソンさんが手放して喜んでくれた。「やっぱり、お前に懸けてみて良かった」と言った。この我々に好意的なアカウント・マネジャーはそれから暫くして、奥さんと双子が、うちの近くの交差点で不幸な交通事故に遭い、気を落として銀行を辞めて、1 人でアルバーターの父親の農場へ帰ってしまった。

その後のアカウント・マネジャーは悪者だった。数年後うちの銀行がコマーシャル・アカウントをラングレー支店に移した際、我々がミンクをアメリカで売って、米ドルのチェックを銀行に入金し、カナダ・ドルに替える際、金額が多いと通常サービス・チャージを取らないことになっているのに、マネジャーは、いつも私にサービス・チャージしていたことに気が付いた。ラングレー市の我が銀行の支店は、それを聞いて、直ぐその年の分だけを払い戻してくれたが、何の断りも謝りもなかった。

ひょっとして、不正を指摘した私は、彼等に「生意気な奴(イミグラント)だ」と思われたかも知れない。彼等の私を見る目が以後一段と厳しく、挑戦的(バディーランゲージ)になった。

スタンからの餌の質が落ち、スタンは、「お前だけに良い餌をやる事は出来ない」と、言い出し、私はこれはまずいと思った。別にそれまで、スタンは、私に特別良い餌だけを呉れていた訳ではなく、しかも彼の使っている使用人の中には、何を遣るか分からない人がいた。想像の可能性を勝手に思い巡らせると、スタンが知らない内にチキンと七面鳥が混ざることもあり、面白半分に病気で死んだミンクの堵体をチキンや魚のチョッパーに投げ入れられて、一緒に摺りつぶされても我々はどうしようもない。

私が独立して、土地を買い、飼育場をスタンの飼育場から移し、スタンもミンクを又飼いはじめた折り、彼の或



る使用人がお客の餌用のシャベルでスタンのミンクの脂を掬ったり、スタンのミンク場でミンクの糞を掬っているのを目撃している。目撃された使用人が、私の視線に気付きニタリと意味深気に笑ったのを目撃している。腐った材料を捨てないで、えさの材料に入れられても何もできない。それに彼らは、私がアイヴィンの使用人から独立して、自分でミンク場を始めたことをねたんでいた。その上に、スタンまでも、『お前だけに、良い餌はやれない!』と云い出したのには、彼の取り巻きのごますり飼育者が何か云い出したのに相違ない。

魚の中には、ミンクがバイオティン欠乏症を起こす酵素を持っているものがあり、又そのような魚を腹一杯丸呑みしている魚がある。症状が刺毛に覆われた、その下の綿毛で静かに進行し、それに気が付かないでいると、秋になってミンク毛皮の綿毛が一面に白いことに気付くことがある（コットン・ファー）。ただ色が白い丈ではなく、毛の密度も質も皮も悪くなっていること（業界ではコットン・ファーと呼んでいた）に気が付いた時は、もう手遅れである。対策としては、まずそのような魚をミンクの餌にしないことだが、普段スタンはそのような魚は熟を入れて加工するドッグ・フードかキャット・フード用に別にしている。もし、どうしてもミンク用の魚が足らなくて、やらなくてはならない時は、その魚を加熱して酵素を分解するか、大量のバイオティンを投与するかである。

魚はスタンやスタンの運転手が加工場から集めて来て、摺り潰して約 25 キロずつ袋詰めして、冷凍してから配達して来るが、普通今まで、凍った魚のブロックは大体 1 種類の魚で出来ていて、ブロックを割って見ると大体何の魚か見当が付いた。すり潰す前に、前のバッチ（トラック1杯）の魚がダンパー（トラック1杯分の魚やチキンをアーガーへ落とす油圧装置）やアーガー（螺旋状搬送機）やチョッパーのシステムの中で室温にさらされて、残って、腐りはじめていたり、何かの理由で 2 種類以上の魚が混ざっていると、それを見分けるのが困難になり、魚によってはそれ自身バイオティンを分解する酵素を持っていなくても、その様な酵素を持っている魚を腹 1 杯呑み込んでいることもある。

ミステークは年間、たとえ 1 度でも許されない。穀類にも注意しなければならない。穀類は 2 つの会社の加工したものが出回っていて、全てアメリカのミンク農場が沢山ある、ウィスコンシン州とミネソタ州か

らのものであった。今までカナダのウイニペグの T & T 社のものを使っていたが、新しくミネソタ州の会社から餌屋のダン・パイルを介して、私宛にトレーラーで来たバッチを使い始めた日、穀類がネズミの糞に汚染されていた様に、全ミンクの糞の色が突然灰色で芳しくなくなって、下痢気味で糞が太く、柔らかくなり、消化不良気味になったので、使うのを直ぐ止めた。

このような時は、ミンク・ビジネスの成否を掛ける試験の時で、我々の日頃の気構えが試されることになる。餌をやり終わって、給餌機をフィード・ハウスに収納して、ミンク小屋に戻り、今やり終わった餌を食ったミンクの排便を確認をする。排便の異常を下痢便と見るか、少し軟便と見るかが問題になる。軟便と見て、翌日までそのままにして置き、ミンクにその餌をたべさせるか。あるいは、軟便でも不合格と考えて、今やり終わった 15000 程の籠の上にある全体で 5 トン程の餌を全てスクレープし直して、捨ててしまい、新たに材料を吟味して、冷凍庫から出して、餌を作り、新しい餌をやり直すかが、決心のしどころとなる。

15000 程の籠の上の今やった餌のスクレープは富美子達の仕事で、前日からの半乾きのわずかな残り餌のスクレープとは違って、新しい水分の多い大量の餌のスクレープとなる。スクレープした餌は、小屋から運び出して、穴を掘り、埋めなければならない。当然、富美子はその仕事量に押しつぶされそうな恐怖のため反対する。

私はミンク毛皮の質を第一と考え、餌を遣り直す決心をする。餌の材料の穀類以外は全て冷凍庫の中にある。4.5 トン余りの、フローズン（冷凍）の材料、25 キロの袋詰め、約180 個程を一個ずつ手で持ち上げ、ラックに載せ、フォークリフトで冷凍庫から外に出す。プロパンガスの強力なブロワーを 2 台つけ、直ちに、冷凍のフィッシュ・ブロックやチキン・ブロックの紙袋を破り、チョッパーに入るように、斧で小さく割らねばならぬ。時間を気にして、25 キロのカチカチに凍ったブロック 180 個との死に物狂いの格闘である。

30 馬力の油圧装置も悲鳴を上げる。グラインドされた雪のような餌を、湯を使って、ミキサーで練るのもコツがいる。

とりあえず、緊急用のヒューマン・コンサンプション（人間食用）の小麦粉と麩を入れて、午後の6時頃やっ

と餌を練り上げる。給餌機にはヘッドライトが備わっ



ているが、給餌機のエンジンに気を使いながら餌を遣り始める。懐中電灯を片手に、ナイフでスクレープに手こずっている富美子に追いつき、助けながら、餌やりが終わり、翌日の餌の材料約 180 個(4.5 トン)を冷凍庫から出し終わり、家の方を向くと、白々と夜が開け始める。

以後、ローカルの動物飼料会社のバックーズフィールド社やコオップ、ヴァン・ウォーター・アンド・ロジャース社から生の穀類(人食用オーツ、バーレー)を買い、クッカーでクックすることにした。ウィート・ブラン(小麦糠)や、良質のファイン・ウイート・フラワー(上質小麦粉)は、生でやるが多かった。穀類はミンクの餌の10 パーセント位使うが、人食用の穀類にも収穫後にケミカル(殺虫剤)を混ぜるのだから(アフター・ハーベスト・プリパレーション)、特に動物用には程度の悪いものが多い。

カナダやアメリカの 1 部、雨の少ないプレーリー地方では、穫れた穀類を港まで安く(実は穀類の値段が安過ぎて、輸送賃が出ない)輸送する術が不十分で、また十分のサイロもビンもないものだから、1旦収穫した穀類に殺虫剤を混ぜてフィールドにそのまま山積みにしてある場合があり、外側のかびた部分を払いのけて、見た所良さそうなものを販売するそうだ。私達は 2 トン半のスチーム・クッカー(蒸気調理ミキサー)をアーテックス・ファブリケーター社のラルフに作ってもらい、数馬力のナチュラル・ガス・スチーム・ボイラーを買い、毎日のように疑がわしい魚や細菌カウントの高い材料を穀類と共に加熱処理した。例えば年に一度のミステークも許されない。

ある時、これは数年後だったと思うが、親しくしていたアメリカの前ミンク飼育組合の会長のアーチャー・ガードナー氏が、「ジミー、牛の肝臓がある」と、オレゴン州の自宅から電話をして来た。「どんなものだ」と聞きかえすと、「良いもので、メキシコへ売るときは、食肉用だ」と言う返事が返って来た。「それではカナダへはどうか」と聞くと、「勿論、動物用飼料だ」と言って笑った。私は日本へはと聞こうとしたが止めた。

それは唯、親しい者同士の日常会話だったが、私はその後、何故だか、数日間、彼の電話にこだわりだした。あれは彼が余り深く考えずに、唯、食肉加工業者のセールス・トークを受け売りしたのかもしれない。彼自身又

は、彼を取り巻く社会の普段の考え方が反映したのかも知れない。本当にダブル・スタンダードが北アメリカ社会に存在するのかも知れない。本当に良いものを買って過ぎて、困っているのかも知れない。自分が買ったものが悪かったので、それをなんとか処分しようとしているのかも知れない。

もっと深い第三者の政治的な動きに押されて、私を落し入れるために、比較的我々と親しくしている彼が、1 役買 わされて、電話して来たのかも知れない。将棋のように、色々頭を使った。

私も富美子も結婚する以前から、馬、牛、豚、チキン、羊等の内蔵を食べたことがあまりなく、酒を全く飲まないことにした私は、日本の焼き鳥やホルモンには全く縁がない。その私が想像するのだが、どうもこの北米では牛肉の供給量が余りにも豊富過ぎて、あまり内臓を食べる必要がないため、内臓は捨てる程余っているようだ。したがって、レバー等は始めから良いものが動物用になるわけだが、自然と、取り扱いが悪くなって、急速冷凍が悪かったり、入れる箱が基準以上に分厚買ったり、温度が十分冷めないうちに箱詰めして冷凍したりして、冷凍ブロックの中央部分がグリーンに変色していることがある。勿論、それを生で食べるミンクには、余程注意しないと大変なことになる。

《NO48に続く》



11. 事務局からのお知らせ

● 関西支部「森本先生特別講演会開催」

- ・2023年10月3日
- ・於：豊中市立文化芸術センター大ホール

● 東京地区第7回りらいぶ落語会の開催

- ・2023年11月8日
- ・於：お江戸両国亭

元防衛大臣
森本敏先生
特別講演会
「インド太平洋の安定～台湾危機と日本の課題」

入場には受講券が必要です。
2023年10月3日(火)
開場14:00 開演14:30 終了16:00
会場 豊中市立文化芸術センター大ホール



大阪府立豊中高校第12期生。防衛大学校卒業。航空自衛隊を経て外務省入省後、在米日本国大使館一等書記官、情報調査局安全保障政策室長など一貫して安全保障の業務を担当。2006年より防衛大学附属。同大学の総長を兼任し、2022年同大学の名誉教授称号授与。2021年から同大学の顧問を務める(現職)。これまでに前代防衛大臣補佐官、防衛大臣(民間人初)、防衛大臣政務官等を歴任。

東京地区
第7回 りらいぶ落語会
コロナ禍も過ぎ、おもしろい話に声をあげて
笑って、ストレス解消、また若返りを!!
出演者: 桂 三若、三遊亭楽太、
ゲスト-三遊亭円福
日時: 2023年(令和5年)11月8日(水)
開場 12:30 ~ 開演 13:30
場所: お江戸両国亭 (アクセス地図、所在地等参照)
※全席自由席 観覧券1枚につき1名(小学生以下は保護者同伴)
本戸銭: 前売り 2,000円、当日 2,500円

上方落語と江戸落語とのコラボ!!
お江戸両国におもしろい落語旋風が吹く!!

お問い合わせ: りらいぶ落語会事務局・森村
森村 直子 089-9982-6237
メール: raiibu_shimamura@netmail.com
桂三若オフィシャルサイト
https://hanjaku.com

お江戸両国亭へのアクセス地図

企業
NPO 法人リタイアメント情報センター
〒100-0010 東京都千代田区千代田2-2-2
日本橋区本町1-30-4 新日本橋ビルディング1階
TEL: 03-6362-3040 FAX: 03-6362-3041
Eメール: info@retire-info.org
URL: http://retire-info.org

お江戸両国亭の案内図

お江戸両国亭
〒100-0010
東京都千代田区千代田2-2-2
日本橋区本町1-30-4 新日本橋ビルディング1階
TEL: 03-6362-3040 FAX: 03-6362-3041
Eメール: info@retire-info.org
URL: http://retire-info.org

● 第16期事業報告

2023年10月27日(金)に総会を開催し事業報告が承認されました。

(1) 事業の成果

第16期も先期に引き続きコロナ禍の影響があり、多くの活動は中止及び延期となり、先期同様に活動が停滞した1年となった。しかし、その間にも会員各氏の尽力でITシステムを駆使したりリモート諸活動には誇るべきものがある。

また当該NPOの肝となる「情報発信事業」に関しては、リタイアメント世代を対象にした情報提供としてのR&Iりらいぶジャーナルの発行を通して、会員や交流団体への有益な情報提供を例年通り継続的に実施された。

(2) 事業の実施に関する事項

① 消費者保護のための相談事業

海外および国内の長期滞在生活に関する消費者トラブル相談等は第16期も特に無し



② 消費者保護にかかわる事業者サービスの評価に関する事業

事業者評価の基準（ガイドライン）の維持

③ 情報提供と交流の促進に関する事業

R & I 情報紙として、主にリタイアメント世代向けのりらいふジャーナル ニュースレターを半年毎に発行し、会員や交流団体への情報提供を実施。

また、コロナ禍の影響が若干残っており多くの活動は中止または延期となったが、関西支部を中心とした文化交流活動等を一部試行した

(3) 詳細活動報告

定期的な活動内容		
・ R&I “りらいふ” ジャーナル ニュースレター 年2回発行 45号（10月31日）、46号（5月15日）		
・ 関西支部 株式投資教室 講師：柏原 幾松（新生投資クラブ代表） 杉ル・アビリーにて開催 9月17日、6月3日、6月24日、8月12日、に実施		
日付	その他の活動内容	
＜2022年＞		
9月29日	関西支部 落語 桂三若師匠独演会	ベルウッドにて
11月15日	関西支部 廣瀬純氏講演会「テレビに出た鴨長明」	ベルウッドにて
＜2023年＞		
2月28日	関西支部 唐渡吉則氏講演会「人を思う」	ベルウッドにて
3月28日	関西支部 落語 桂三若師匠独演会	ベルウッドにて
4月27日	関西支部 麻殖生健治氏講演会「遠野物語と交渉」	ベルウッドにて
5月31日	関西支部 佐藤宏道氏講演会「無題」	ベルウッドにて
6月21日	関西支部 リタイアメント作品展	ベルウッドにて
7月 5日	関西支部 熊谷貞俊氏講演会「大学&議事堂」	ベルウッドにて
その他	東京地区および関西支部で予定していたイベント等（健康増進セミナー、勉強会等）もコロナ禍の影響で中止および延期	

(4) 第17期活動予定 （2023年9月1日から2024年8月31日迄）

当該NPO 法人は営利事業を一切行わず、併せて多くの会員が後期高齢者であることを鑑み、今期からは<スローライフ>を旨とした活動を展開する。

(5) りらいふ憲章の堅持

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

(6) 年間行事予定

- ① 消費者保護のための相談事業の継続推進
- ② 後期高齢者に役立つ情報提供と交流の促進に関する事業の継続推進 （りらいふジャーナル活用）
- ③ 運営会議、理事会、総会
- ④ 講演会、セミナー、イベント、各種交流会の開催
- ⑤ 健康増進セミナー
- ⑥ りらいふ落語会



⑦ R & I ホームページ維持・活用推進
(7) プロジェクト活動の継続推進

＜主たるプロジェクト＞ (敬称略)

- ・ りらいぶジャーナル・プロジェクト (豊口、阿賀)
前期に続き、第17期も年度2回の発行 (予定発行月: 10月および4月)
- ・ リタイアメント情報センター ホームページプロジェクト (鳥居)
- ・ りらいぶロングステイ協議会活動&海外プロジェクト (宮寄、島村)
- ・ 関西支部諸活動 (阿賀)

(8) 第17期活動予算 (案)

今期も会員への会費徴収撤廃実施につき、諸活動の費用は参加者の受益者負担とする。

尚、万が一、諸活動時に剰余金出来の場合は当該 NPO への寄付金として扱う。

(2023年9月1日から2024年8月31日まで) (単位 円)

収入		支出	
寄付金	50,000	セミナー費用	1,000,000
セミナー収入	1,000,000	事務用品費	5,000
		印刷費	10,000
		通信費	15,000
		雑費	20,000
収入合計	1,050,000	支出合計	1,050,000

(9) 第16期 理事6名、監事1名

理事	竹川 忠徳	理事長、事務局 (官庁対応、会計、総会)
理事	阿賀 敏雄	関西支部長、事務局 (関西支部関連)
理事	山本 昌弘	元法政大学教授
理事	太田 治夫	弁護士 元東京弁護士会副会長
理事	宮寄 哲郎	元 NPO 南国暮らしの会理事長
理事	豊口 一美	事務局 (りらいぶジャーナル編集長、運営会議議長)
監事	鳥居 雄司	事務局 (ホームページ作成・保守)
顧問	渡嶋 八洲夫	元キャメロン会会長
顧問	中野 寛成	元衆院副議長・国家公安委員長

なお事務局は、竹川忠徳氏、阿賀敏雄氏、豊口一美氏、鳥居雄司氏の4名体制で運営する。

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター (R & I)

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 18 階

ヴィップシステム(株) 内

●TEL 03-5860-9483 FAX 03-5860-9477

●事務局 E-mail : toyoguchi.k@gmail.com

●HP : <http://retire-info.org/>

(発行責任者) 事務局 豊口 一美